

No 6177/20

三
權
論
完

法學士 高槻純之助著

東京 博文館藏版

031584-000-9

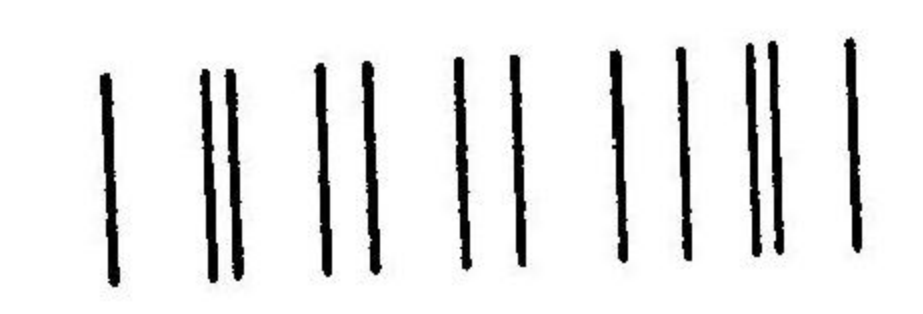
21-258

主權論

高槻 純之助 / 著

M23

BBE-0205



主權論目次

- 第一章 主權ノ定義及其解說
- 第二章 沿革上主權ノ本源
- 第三章 主權ノ内國及外國ニ對スル作用
- 第四章 主權ノ分掌
 - 第一節 總論
 - 第二節 憲法法律命令ノ關係ヲ論ズ
 - 第三節 代議院ヲ論ズ
 - 第一 代議院ノ性質
 - 第二 代議院ノ官能
 - 第三 代議院ノ組織權限等
 - 第四節 行法權ヲ論ズ

第一 國皇

第二 中央政府

第三 外務行政

第四 內務行政

第五 司法行政

第六 財政行政

第七 軍務行政

第八 行政監督

第九 大臣及官吏ノ法律上ノ責任

第五章 各政体主權ノ分配ニ付キ歴史の攻究

第一節 政体ノ區別

第二節 政体歴史のノ發達

(一) 古代ノ制度

(二) 宗教的國家

(三) 市府的國家

(四) 封建的國家

(五) 近代ノ專制君主國家

(六) 立憲政体

主權論目次終

主權論

法學士高槻純之助著

第一章 主權ノ定義及其解

主權ノ英語ニテ「ソベレンチー」(Sovereignty)ト云ヒ獨乙語ニテ「ズ
 ーベレニキテー」ト云ヒ佛語ニテ「スーヴレーヌテ」
 (Souveraineté)ト云フ其起源タルヤ中世ノ羅句語「スーブレミタス」
 (Sovereignitas)トテ最高ノ權カト云フ意義ヲ有スル語ニ發シ而シ
 テ後チ佛國ニ入り現今ノ字体ト變化セシモノナリ

主權トハ國家ト稱スル權利ノ主体即チ法人ノ有スル命令強迫
 ノ權カチ云フ

國家ノ定義

國家トハ何ゾヤ國家トハ劃定ノ境土ヲ占有スル獨立ナル政治

主權論

國家ノ公法上ノ性質

上ノ團體ヲ云フ

國家ノ公法上ノ性質ニ關シテ古來種々ノ説ヲ生出シ來レリ其重ナル者ハ曰ク國家ハ有機體ナリト曰ク國家ハ國土ト人民トヲ併セ稱スル者ナリト曰ク國家ハ國土ト人民トニ合スルニ國君ヲ以テシタル者ナリト曰ク國家ハ法人ナリト是也夫レ公法上ノ法人トハ換言セハ他人ニ對シテ命令ヲナシ得ル主体ト云フモ不可ナカルヘシ往古封建制度ノ行ハレシ時ニ當テハ公法上ノ法人其數甚ダ多ク苟モ其土地ヲ所有スル者ハ之ニ兼メルニ其土地ニ於ケル人民ニ對スル權力ヲ以テセリ而ルニ現今ニ至リテハ其數僅ニ二トナレリ即チ國家及自治體是也然リ而メ自治體ノ享有スル權利ハ元來國家ノ讓與ニ係リ決シテ自己固有ノ者ニ非ズ之ニ反シテ國家ハ獨立自存ノ權力ヲ有ス故ニ國家ハ統御ノ主体ニシテ公法上惟一ノ法人ナリ國家ハ權力ヲ用

國家ノ目的

ヒテ命令ヲ布キ權力ヲ用ヒテ之ヲ強迫スルコトヲ得ルナリ國家ハ即チ政體ノ出ル本体即チ主權ノ存在スル所アリ然リ而メ一個人ノ權利ハ法律ニ由リテ確認サレタル權力ニ外ナラズ個人的權利ハ法律ノ結果ニシテ法律ハ其支配ニ屬スル處ノ各個人ノ權力ノ範圍及權限ヲ定ムル者ナリ現今ニ於テハ法律ノ唯一ノ本源ハ只國家アルノミ而メ國家所定ノ條規ニ背反スル者ハ其名目ノ何タルヲ問ハズ全ク之ヲ認めザルナリ故ニ一個人ノ法律上ノ範圍ハ國家ノ所定ニ係リ國家ノ法律上ノ範圍ハ國家自ラ之ヲ定ムルナリ之ヲ換言スレバ國家ハ主權ノ存スル處タリ國家ノ目的トハ何ゾヤ古來國家ノ目的ヲ論ズルモノ甚ダ多シ然レモ未ダ其正鵠ヲ得タルモノアルヲ聞カズ今其重ナルモノヲ列舉センニ

(一)ハ希臘ニ於テ「アリストートル」プラト一等古代ノ哲學家ガ說

正義ニ符合

リシモノニシテ國家ノ目的ヲ解シテ善ト正トノ實行ニアリトナセリ此說ハ現今ヘーゲル派ノ信用スル處ニシテ即チ道德上ノ原理ヲ客觀的ニ表彰セントスルナリ夫レ國家固ヨリ不道德ノ行爲ヲ獎勵スルモノニアラズ否却テ之ヲ防遏セントスルモノナリ然レモ國家ノ行爲ニシテ道德ト相合セズ全ク獨立ナルモノ亦多シ故ニ此二者ノ範圍ヲ互ニ均一ナラシメントスルハ抑誤謬ノ甚ダシキ者ト謂ハサルベカラズ

神慮ニ符合

(二)ハ中世ニ起リ近世ニ至ル迄加特力教及ビ回々教ヲ尊奉スル邦國ニ於テ大ニ採用サレタル說ニシテ即チ宗教的思想ヲ實行シ神ノ國ヲ此世ニ作り出サントスルモノ是ナリ此解明ノ不充分ナル所以ハ第一說ノ下ニ於テ辨ジタル處ヲ推セバ自カラ明カナルベシ

(三)ハ英ノ「ベークン」ベントム佛ノ「ルーソ」獨ノ「トーマシユ

全般ノ幸福

ス等諸家ノ唱道セシ處ニシテ十七世紀十八世紀ノ哲學ニ原ス其說タル全般ノ幸福ヲ以テ國家ノ目的トナスニアリ此說甚ダ不明瞭ナリト謂フベシ何トナレバ幸福ノ者タル其性質頗ル主觀的ニシテ其標準トナスベキ者ナシ古來人民ノ幸福ヲ計ルト稱ヘ抑壓暴戾以テ自利ヲ營ミタル君主甚ダ多カリキ故ニ此說明ヲ以テ完全ナリトスル能ハズ

個人的權利ノ保護

(四)ハ第三說ニ反對シテ早ク已ニ國際法ヲ以テ有名ナル和蘭人「グローチユース」ノ唱へ出ス處トナリ十八世紀ノ哲學家ノ贊成ヲ受ケタルモノニテ「カント」氏ノ如キモ此派ノ一人ナリ現今ニ至リテ此主義ハ英ノ「マンチエスタ」學派ト稱スル經濟社會ニ行ハル、處ニシテ即チ個人的權利ノ保護ヲ以テ國家唯一ノ目的トナスモノナリ此學派ノ極端ニ走リタルヤ遂ニ政府ヲ保險會社ノ如ク見做シ租稅ヲ以テ保險ノ掛金ト同一視スルニ至レ

リ固ヨリ个人的權利ヲ保護スルノ司法ハ國家最大行為ノ一ナルヤ明カナリ然レモ之ヲ以テ唯一ノ目的トナスハ實際ニ及シ歴史ヲ顧ミサル者ノ言ノミ文明ノ進歩ニ從テ國家ノ行為益々多岐豈尙司法ノミニ止マランヤ且ツ夫レ個人ノ權利トハ何ゾヤ法律ノ創定若クバ保護ニ係ル一個人ノ能力ニ非ズヤ然レバ權利ハ法律ノ結果ナリ權利ハ法律ヲ離レテ自立スル者ニアラサルナリ

斯ノ如ク時世ト學派トニ由リテ諸種ノ異說ヲ生ジ來リシト雖モ孰レモ極端ニ失スルノ弊ヲ免ル、^一ナク一モ以テ完全ナル解明トナスヲ得ズ故ニ現今ノ國法學ヲ講ズル者ハ國家ノ目的ヲ解スルニ單純ナル總括的ノ形式ヲ用ヒ以テ時ノ古今ヲ論セズ國ノ東西ニ係ラズ之ヲ應用セントスルハ到底成シ得ベキニアラサル所以ヲ認識スルニ至レリ何トナレバ各國歴史ヲ異

主權及主權者

ニシ特殊ノ事情アツテ存スレバナリ故ニ左ノ三ノ者ヲ以テ國家ノ目的ノ標目トナスヲ常トス^一他國トノ關係即外交上ノ關係即自存^二臣民ノ關係即廣義ノ司法^三社會全般ノ關係即社會各個人ノ調和的進歩是ナリ

主權ハ國家ノ最高權ナリ而シテ已上陳述シタル國家ノ目的ヲ達センガ爲ニハ之ヲ掌握スル者ナカルベカラズ而シテ此國家權ノ代表者ヲ目シテ主權者ト云フ^一ジョン・オースチン氏ハ其著法理學ニ於テ主權者ヲ解シテ主權者トハ確定シタル最優者ニシテ他ノ優者ニ總屬スルノ習慣ナク創定シタル境主ヲ有スル獨立政治社會ノ全人民ト權利服從ノ關係ヲ有スルモノナリ^二ト云ヘリ猶ホ詳ニ氏ノ所論ヲ解説センニ主權者ハ確定シタル一個人若クバ一團體ナラザルベカラズ即チ一個人若クバ數人相聯合シテ一個ノ法人ヲ作ルモノタラサルベカラズ若シ數人相

聯合スルコトナク紛々擾々互ニ其雄雌ヲ争フガ如キコトアラバ之ヲ目シテ主權者トナスコトナ得ズ而シテ主權者ハ又其政治社會ノ最優者ナラザルベカラズ故ニ内ハ其國內ニ向テ外ハ萬邦ニ對シテ最高權ノ所有者タラザルベカラズ即チ他ニ隸屬スルノ跡アルベカラズ而シテ其全國民トノ關係ハ權利ト服從ノ關係ニシテ權利者ハ命令ニ依リテ之ヲ強迫實行セシムルコトヲ得故ニ臣民ハ其命令ニ服從スルノ義務ヲ有スルモノナリ而シテ此關係タル一時若クハ不定ノ者ニテハ不可ナリ永遠恒久ノ者タルヲ要スト云フニアリ

第二章 沿革上主權ノ本源

主權者ノ掌握スル主權ノ本源ニ關シテハ古來種々ノ説アリ中

沿革上主權ノ本源

世ノ初ニ當リテハ主權ヲ以テ神ノ與ヘタル職權ナリトナセリ十二世紀ニ至リテ此説ニ反對シテ國皇ハ獨立ナル權力ノ所有者ナリトノ主權説ノ萌芽ヲ發スルニ至レリ中世ノ法學者ハ耶蘇教國ノ總主タル羅馬獨乙大帝王ノミヲ目シテ主權者トナセリ

其後大帝王ノ權威次第ニ衰へ羅馬帝國遂ニ滅亡シ佛獨以等紛起スルニ及ンデ各國ノ帝王皆自カラ主權者ト稱スルニ至リ而シテ佛王ハ常ニ意ヲ中央集權ニ用ヒテ遂ニ「スーヴレーヌテ」ナル語ヲ生ゼシムルニ至レリ元來「スーヴレーヌテ」ナル語ハ國外權力ノ羈絆以外ニ獨立スルノ權ト云フノ意ナリシガ後佛國ノ集權盛ニナリテヨリ内部ニ於ケル關係即チ支配者ト臣民トノ關係ヲモ含ムニ至レリ

「ボーチン」氏曰ク内部ノ關係ニ於ケル主權ハ無制限ナリ即チ專

權ナリト此説タルヤ歐洲ニ於テ立君獨裁政体ノミ存在セシ時ニ於テハ至當ノ解明タリシ者ニシテ十九世紀ノ初迄ハ其實用ノ區域廣大ナリキ因ヨリ主權ナルモノハ其本体ニ於テ無制限ナル者ナリ其無制限ハ二様ノ點ヨリ之ヲ觀察スルヲ要ス第一ハ其權力ノ及ブ區域一其權力ノ分量ニ於テ制限ナキヲナリ例ヘバ大日本帝國ノ主權ハ大日本帝國ノ版圖内ニ限ラル然ラバ何故ニ之ヲ無制限ナル統治權ナルヤト云フニ統治權其者ノ性質ハ地理學的ノ一定ノ區域ニ無關係ナリ故ニ如何ナル廣袤ノ地域ニ及ブ權力ヲ統治權ト云フカハ豫メ定義ヲ下シ得ベキ者ニアラズ帝國ノ主權ガ現今ノ版圖内ニ限ラル、コトハ事實ナレバ主權タル性質ヲ組立ツル一ノ要件ナリト云フヲ得ズ統治權ハ如何ナル權力ヲ指スカト云フニ凡テノ權力ノ種類ヲ指スト云ハザルベカラス若シ夫レ法律ニ遵依スルノ權力ナリセバ權力

主權制限ノ二様ノ觀察
其一
權力ノ及ブ區域ノ分量

ノ性質即チ何々ノ事ヲナシ得ル能力アリトノ規定豫メ存スル者ナレバ法律ノ本源タル統治權ハ權力ノ分量ヲ豫メ定メザルモノナリ第二ハ之ヲ無制限ト云ヘバ他ノ權力ノ下ニ立タストノ意ナリ凡テノ權力ハ皆自己ノ下ニ位シ自己ノ授ケタルモノナリ統治權ハ歸一スル所アルヲ要ス歷史上ノ事實ニ依レバ必ずシモ近世ノ國家ノ如ク古來ヨリ統治權ノ中央ニ歸一シタル者ニアラズ封建ノ制度倒レテ遂ニ現今ノ有様ヲ生ズルニ至リタルナリ然レバ之ヲ推シテ主權ノ作用ヲモ無制限ナリト云フハ不可ナリ其理由ノアル處ハ第四章代議院ヲ論ズルノ條下ニ詳説スベシ

此國皇ノ專權説ニ反對シテ主權ノ源泉人民ニ在リトノ主義ヲ生シ來レリ當時神聖ナル羅馬帝國ハ君主ノ撰任ニ關シテ撰舉主義ヲ執リシヲ以テ大ニ其説ノ勢援トナレリ斯クテ極端ナル

其二
他ノ權力ノ下ニ立タズ

主權人民ニアリトナス説

國王專權説ニ反シテ早ク已ニ中世ニ於テ主權ハ人民ニアリトノ主義ノ萌芽ヲ發生シ來レリ此主義ハ十七世紀及十八世紀ニ於テ大ニ識者ノ賛成ヲ得將ニ他ノ極端ニ失セントスルニ至レリ此論タル佛ニ於テ「ルソー」之ヲ理論的ニ唱道シ而シテ其實例ハ佛國大革命ニ於テ演出セラレタリ「ルソー」民約説ノ要ヲ案ズルニ國家ハ素ト人民ノ約束ヲ以テ成リ立ツモノニシテ國家ト稱スル團體ノ一員タランガ爲ニ人民ハ其權利ノ一部ヲ擲テ以テ國家總體ノ意志ニ服從スルニアリトナシ而シテ主權ナルモノハ單ニ此國家普通ノ意志ヲ實踐スルニ過ギズトナスモノナリ民約説ハ歴史ヲ顧ミザルノ説ニシテ茲ニ駁スルノ要ナシ

主權在民説ノ二派

主權ヲ以テ人民ニアリトナス説ニ二種アリ一ハ其國內ニ住スル總體ノ人民ガ代議制ニ依ラバ一同自カラ政事ニ參與スルヲ

要スルモノニシテ其弊ヤ秩序ヲ紊亂シ事々理スル處ナキニ至ラシムニハ國內ニ於ケル國民ニ財産上身體上精神上ノ制限ヲ置キ其資格ヲ有スルモノ國事ニ參與ス而シテ自カラ直接ニ參與スルモノハ直接民主政体ニシテ間接ニ參與スルモノハ代議民主政体ナリ

主權國家ニ存スル説

十九世紀ニ至ルニ及ンテ主權説大ニ分明トナレリ其故ハ當世紀ニ於テ立憲制度ノ確立ト共ニ歴史的國家ノ觀念俄ニ進歩シ來リ遂ニ前ニ述べタルガ如キ兩極ノ主義ヲ以テ廣ク之ヲ應用セントスルヲ到底成シ得ベキニ非ル所以ヲ覺知スルニ至レリ一方ニ於テ國家ニ關スル法理大ニ進歩シ國家ハ法人ニシテ國王ト別物タルベキモノナリトノ説盛ニ行ハル、ニ至テ國王即國家ナリトノ説ハ漸ク餘燼ヲ保ツノミ

第三章 主權ノ内國及外國ニ對スル作用

主權ナル思想及觀念ハ國家ノ法人及國王トノ間ニ未ダ區別ノ立タザル時代ニ其根元ヲ發シタリキ故ニ現今ノ國法學ニ於テモ主權ヲ一方ニ於テハ國家ノ或ル特質ヲ指示スルガ如ク一方ニ於テハ國家ニ於ケル確定シタル代表者ノ法律上ノ地位ヲ指示スルガ如ク用ユルコトアリ然レモ主權ハ國家權ニシテ支配者ハ國家權ヲ代表スル者ノミ而シテ其代表スルニ當テヤ憲法所定ノ制限ヲ受ケザルヲ得ズ故ニ甲ヲ主權ト云フ時ハ乙ハ已ニ主權ニ非ザルヤ明カナリ故ニ甲ハ主權ノ本体ニシテ乙ハ憲法ノ範圍内ニ於テ主權者ノ有スル權カト云フモ可ナリ

第一節 主權ノ本體

主權ノ本體

國家ノ特質タル主權ハ最高ナル政治上ノ團體ニ屬スル權力ニシテ二个ノ方向ニ其作用ヲ現ハス

第一 他國ノ權力外ニ一个ノ國家ノ獨立スルコト

第二 其境域内ニ存スル人民及團體ノ上ニ位スルコト

甲ハ即チ主權ノ外部又ハ國際的ノ方向ニシテ乙ハ主權ノ内部又ハ國法的ノ方向ナリ

一國ノ主權ハ或ル自己ヨリ高等ナル權力ノ指揮ヲ受クベキ者ニ非ズ而シテ他國ト條約ヲ締結シテ以テ自己ノ行爲ノ自由ヲ拘束スルガ如キハ全ク國家ノ自由意志ニ出ヅルヲ以テ少シモ主權ノ要ヲ害スルコトナシ斯クノ如ク一个ノ獨立國ハ形式上何タル制限ヲ受ケザル點ニ於テハ或ハ之ヲ無制限ト云フコト得ベシ然レモ其作用ヲ現スニ至リテハ或ハ他ノ機關ノ協同ヲ要シ或ハ國家ノ公安公利ノ宜シキニ處センガ爲ニ勢ホヒ制限ナキヲ得ザルナリ斯ノ如ク國家ニハ最高權ナルモノアリテ之ヲ各團體及各行政機關ニ分配スルノ權アリ而シテ其權力ハ自己

外國ニ對スル
主權ノ作用

主權ノ内部即
チ國法的作用

ノ自由意志ニ依ラザレバ決シテ左右セラル、コナキモノタリ

第一 外國ニ對スル主權ノ作用ハ現ハレテ或ハ公使ヲ派遣シ若クバ此ヲ受クルノ權トナリ獨立ニ條約ヲ締結スルノ權トナリ戰ヲ宜シ和ヲ講ズルノ權トナル然レモ單ニ此等ノミチ以テ其國ノ獨立如何ヲトスルコト能ハズ其他諸外國ノ承認ニ依ルモノ甚ダ多シ即チ列國交際ノ上ニ於テ或ハ列國會議ニ參列スルヲ認許スルヤ否ヤノ類ナリ又一國ニ新ニ政体ヲ變更スル時ハ國際公文ニ由テ之ヲ決スルヲ例トス(若シ條約締結ノ權公使派遣ノ權ノミチ以テ獨立國ノ標準トナサバ埃及ノ如キモ獨立國ナリト謂ハザルベカラズ之ニ加フルニ戰ヲ宜シ和ヲ講ズルノ權ヲ以テスレバ稍獨立ヲトスルノ標目トナスコト得ベシ)

第二 主權ノ内部即チ國法的作用ニ付テ論ゼン如何ナ

主權作用ノ及
ボス範圍

領土

ル國家ト雖モ土地ナクシテ成立スルコト能ハズ然レモ國家ノ施行スル處ノ權力ハ財產的ニ非ズ公法的ナリ而シテ其作用ノ及ブ處ニアリ甲領土乙臣民是ナリ今少シク之ヲ説カン

甲、領土 夫レ主權ハ其領土内ニ全然タル効力ヲ有シ他國ノ行爲ヲ認メザルヲ以テ原則トナセモ國際條約若クバ外交上ノ慣習ニ由リテ或ハ一屏之ヲ擴張シ或ハ一屏之ヲ減縮スルコトアリ是レ主權ノ任意ノ行爲ニ出ヅルヲ以テ爲ニ少シモ主權ノ本体ヲ害スルコトナシ今其重ナルモノヲ舉ゲンニ

一 帝王、皇族、公使及其從者ハ何レノ國ニ旅行シ又ハ何レノ地方ニ居住スルモ其外國法律ノ範圍外ニアルモノトス

- 二 國際條約ノ結果ニ由リ治外法權ヲ得タル國民ハ其在留國ノ法律ニ對シテ服從ノ義務ヲ有スルコトナシ然レモ便宜上ヨリシテ其ノ外國ノ警察ニ服從スルノ義務ヲ負ハシムルヲ以テ通例トス然リ而シテ若シ外國人ニシテ其治外法權ノ施行ヲ爲サズ任意ニ其外國ノ司法廳ニ裁決ヲ請フコトアルハ其外國ハ之ヲ裁決スルノ權ヲ得ル者トス
 - 三 身其領土ヲ離レタル國民ト雖モ其身分能力及憲法上ノ國民ノ義務ノ如キハ其自國法律ニ從フベキモノトス
 - 四 一國沿岸ノ海面三海里ノ距離ヲ自國ノ領海ト云ヒ領土ト同様ニ見做ス
- 外洋ニ於ケル其國ノ船舶中ニハ自國ノ法律行ハル、

モノトス

國家ト其領土トノ必要ノ關係ハ憲法ニ由リテ之ヲ規定スルヲ通例トシ以テ其容易ニ分割受授スベカラザルヲ明ニス而シテ若シ之ヲ分割受授スルノ止ムヲ得ザルニ際スレバ法律ニ依ル可キモノトス我國ニ於テハ此規定ナキヲ以テ皇帝ノ勅命ニ由リテ分割變更シ得ベキ者ト知ル可シ

臣民

乙、臣民 永久ニ國家權ニ隸屬ス可キ人民ノ全體ヲ總稱シ

テ臣民ト云フ臣民ト國家トノ關係ハ權利ノ關係ナリ然レモ其關係ハ單ニ法律的ノミナラズ又實ニ道德的ナラザルヲ得ズ臣民ハ其領土ニ忠實ニシテ決シテ犯ス可カラザルコトハ國法ニ於テ嚴刑ヲ附シテ之ヲ強迫ス我刑法第二百一十一條、政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的トナシ内亂ヲ起シタルモノハ左ノ

區別ニ由リ處斷ス一、首魁及教唆者ハ死刑ニ處ス云々法律ヲ破ラザルノ義務ハ臣民ニノミ特有ノモノニアラズ其領土内ニ居留スルモノハ何人タリトモ之ヲ遵守スベキモノナリ臣民ハ尙此外ニ庸役ヲ供スルノ義務アリ又法律ノ規定ニ從ヒ國家保持ノ爲メニ財產的ノ義務ヲ負フ而シテ臣民ノ中政權ヲ有スルモノ即チ或ル方法ニ於テ公務處理ニ關係シ或ハ之ヲ擔當スル法律上ノ資格ヲ有スルモノチ公民ト云フ

第二節 主權者ノ有スル權力

主權者ハ主權ノ使用ニ當テ適法タルヲ要ス故ニ國家權ノ掌握者タル一己人若クハ數人ヨリ成ル團體ハ其國家權ノ執行上無制限ナルベカラザルヲハ立憲政體ニ欠クベカラザル處ナリ第四章第二節ヲ參看スベシ

第四章 主權ノ分掌

第一節 總論

主權ハ分割ス可カラザル

主權ハ歸一ニシテ分割ス可カラズトハ輒近國家學上ノ定説ナリト雖モ國家權ノ作用即チ施行ニ當リテハ之ヲ數部ニ分任セザルベカラズ而シテ之ヲ分任シタレバトテ爲メニ少シモ主權ノ統一ヲ妨グルヲナシ否主權者一人ニシテ悉ク之ヲ行ハンコトハ到底爲シ得ベキノコトニ非ズ然ラバ如何ニ之ヲ分掌スベキカ古ヨリ行ハレタル區別ハ立法行政司法ノ三大部局ナリキアリストール氏ハ此三大部局ヲ論ジテ曰ク一國政綱ノ弛張ハ一ニ此三大部局ノ關係宜シキヲ得ルト否トニアリ其一ハ即チ公務ヲ執行スル處ノ部局ナリ其二ハ行政官が政務ヲ執行スル處ノ部局ナリ其三ハ裁判ノ事務ヲ司ドル處ノ部局ナリト

古來行ハレタル三大權ノ區別

立憲代議制度ノ未ダ輸入セラレザルニ當テヤ行政官ハ兎角專權ヲ握リ易ク立法司法ニサヘモ干與シ爲メニ人民ノ自由ヲ妨害シタル例少ナカラズ然ルニ立憲制度ノ行ハル、ニ至リテハ憲法ノ明文若クバ習慣ニ由リテ各部局ノ官能權限ヲ明定シ從テ專權ノ下ニ呻吟スルノ弊ヲ除クヲ得タリ

此三權ノ中孰レカ尤モ主權ノ一部局トシテ重要ナル地位ヲ有スルヤニ關シ古來議論絶ヘザリキ理論上ヨリ之ヲ見レバ萬事ノ上ニ制裁力ヲ有スル一般ノ原則ヲ確定スル處ノ部局即チ人ニ論ナク時ニ論ナク一種ノ命令ヲ以テ或ハ之ヲ命ジ或ハ之ヲ禁ズル處ノ法律ヲ制定スル處ノ立法部局ガ最モ高等ノ地位ヲ有スルガ如シ行政司法ノ部局如何ニ其活動ヲナサントスルモ立法ノ規定ニ從ハザレバ到底之ヲナスコト能ハズ然レモ有形上ノ力ヲ有スルモノハ行政部局ニ若クモノナシ陸海軍ノ指揮警

主權中ノ最重
要ナル部局

察ノ運用國際ノ交渉ノ如キ皆行政ノ官能ニ屬スル重要ノ者タリ此點ヨリ見レバ行政部局ガ最高ノ地位ヲ占ムルガ如シ司法ハ有形上其力尤モ微弱ナルガ如シト雖モ法律ヲ保護シ其規定ニ從テ判決ヲ下シ一朝國家ノ危急ニ際シテハ單ニ正義ノ權威ニ由リテ最強ノ力ヲ現ハスコトアリ斯ク論ジ來ラバ各部局各其長處ナキニアラズト雖モ之ニ由テ直ニ一ヲ以テ他ヲ壓スルトナスハ大ナル誤謬ナリ行政權ハ其掌中ニ有形上ノ力ヲ有スルヲ以テ尤モ蠶食ノ恐アリト雖モ以テ優劣ヲナスニ足ラズ「ルソー」氏曰ク「政治社會ハ決シテ其權利ヲ棄却スル能ハズ常ニ主權者タリト」夫レ斯クノ如ク主權ハ分ツベキモノニアラズ然カレトモ其作用ニ至リテハ之ヲ分任セザルヲ得ズ立法ノ働ハ重モニ一般ニシテ且ツ將來ノ計ヲナシ司法ノ働ハ過去ニ屬スル格段ノ事項ニ關シテ法律ノ規定ヲ應用スルモノナリ行政

ノ勦モ亦格段ノ事項ニ付テ憲法及法律ノ範圍内ニ運動スルモノナリ然レモ此間ニ劃然タル區別ヲナスコトハ甚ダ難シ何トナレバ立法モ時トシテハ格段ナル場合ヲ規定シ司法モ亦未來ノ判決ノ先例トナレバナリ

三權ノ作用ヲ
確定スルノ難
キヲ

此三者ヲシテ其勦ニ於テ全ク相獨立シ相分離セシメントハ到底行ハレザル處ナリ非違ヲ逮捕スルハ行政ノ事ナリ然レモ裁判所之ヲ行ヒ議院モ其開會中此權ヲ有スルヲ例トス裁決ヲ下スハ司法ノ事ナリ然レモ英米ノ如ク撰舉ノ争ニ關シテ議會ノ判決ヲ下スコトアリ百官有司ヲ彈劾スルノ權ハ上下兩院ニ屬スルコトアリ之ニ反シテ英國ニ於ケルガ如ク司法ノ判決ニ由リテ己定ノ法律ヲ動カスノ例アリ即チ法律ニ明文ナク又慣習ナキ争訟ニ向テ學說若クハ學理ヲ應用シ遂ニハ立法院ノ職權ニ近ヅクコトアリ

三權分立説及
其誤謬ナル
ヲ

三權分立ニ關シモンテスキュー氏所論ノ要旨タルヤ三權分立シテ相獨立セズンバ人民ノ自由ハ決シテ保全セザル、ト能ハズ何トナレバ立法權ヲ以テ行政權ト混一スレバ法律ハ決シテ其尊嚴ヲ保ツ能ハズ若シ又立法權ニシテ司法權ト合同スレバ人民ノ權利何ニ由テ全キヲ得ン司法權ニシテ行政權ニ合同スレバ裁判官ハ專斷ノ威力ヲ振フニ至ルベシト云フニアリ氏ガ斯ル分立説ヲ唱ヘタルハ英國ノ政體ヲ觀察シタルニ因ル而シテ氏ノ見ル處ヲ以テスレバ英國ニ於テハ上院ハ即チ司法部局ニシテ下院ハ即チ立法部局君主ハ即チ行政部局タリトナスナリ然レモ此説タル理論ニ適セズ又英國ノ實際ニ合セズ英國ニ於テハ立法ノ權ハ國會ニ屬シ行政權ハ其名國皇ニ屬スト雖トモ其實ハ議會ニ對シテ責任ヲ有スル内閣之ニ任ズ英國ノ國法ニ於テハ國會ノ中ニ國皇及ビ上下院ヲ包含シ之ヲ以テ最高權

主權ヲ立法權
及行政權ニ分
ツ

ノ存スル處トス上院ハ立法部ニ兼マルニ最高等裁判所タル職
權ヲ以テス

歐洲輒近政理ヲ論ズルモノ、説ニ曰ク國家ノ大權大別シテ二
トナス曰ク立法權曰ク行政權而シテ司法權ハ實ニ行政權ノ支
派ナリ蓋シ國家ノ大權ハ其國主權者之ヲ總攬セザレバ支離分
裂其統一ヲ欠キ其生機ヲ保ツテ能ハザルナリ憲法ハ則チ國家
ノ各部機關ニ向テ適當ナル主權ノ定分ヲ與ヘ其經絡機能ヲ保
タシムルモノニシテ主權者ハ其主權ヲ行フニ當リテヤ必ず憲
法ノ規定ニ依ラザルベカラズ下英國ニ於テハ上下兩院ノ專制
ヲ妨ガンガ爲ニ國皇ニ賦與スルニ議會ヲ解散スルノ權ヲ以テ
シ輿論ニシテ若シ國會ノ專橫ヲ厭フノ狀アル時ハ國皇ハ此權
利ヲ利用シテ自己ト意見ヲ同ジフスルノ議會ヲ作ルヲ得而
シテ國皇若シ其暴戻ヲ擅ニセントスル時ハ輿論ハ飽ク迄モ同

内閣及副署ノ
責任

内閣ノ二種

一ノ議會ヲ維持シテ以テ國皇ニ反對セシメ以テ能ク國會組織
ノ平衡ヲ保持スルヲ得ルナリ米國ニ於テハ下院ト大統領ト
ノ專橫ヲ妨ガンガ爲メニハ上院ニ賦與スルニ下院ヲ解散スル
ノ權ヲ以テシ之ニ依テ下院ノ暴ヲ防ギ高等裁判所ニ賦與スル
ニ違憲處分取消又ハ之ヲ無効トナスノ權利ヲ以テシテ大統領
ノ違憲處分ニ反對シ以テ憲法所定ノ權ヲシテ相干犯スルヲナ
カラシム

現今ハ政府事項ヲ處理スル爲メニハ各大臣ノ間ニ省務ヲ分擔
セシメ法律勅令ニ副署シ或ハ省令ヲ發スルノ權ヲ附與シ其事
項ニ關シテ責任ヲ負ハシム而シテ國家全體ニ關スル事項ニ關
シテハ各大臣相聯合シテ其事ヲ處理シ而シテ互ニ連帶ノ責任
ヲ有セシム内閣是ナリ而シテ内閣ニ二種アリ一ハ獨乙帝國ノ
内閣ノ如ク大宰相ノミ其責任ヲ有シ諸大臣ハ責任ヲ有セザル

副署ノ二種

モノト英國ノ如ク諸大臣聯帶ノ責ニ任ズル者はナリ而シテ又其副署ノ責任ニ關シテモ二種ノ説アリ一ハ只其法律若クハ勅令ガ形式上憲法規定ノ手續ヲ經タル公正書類ナルコトヲ證明スルニ過ギズトナスモノニハ其副署ハ法律若クハ勅令ガ前ニ形式上憲法ニ反セザルノミナラズ亦其ノ本質上憲法ニ背カザルモノニアラザルヲ證明スルモノトナス是ナリ然リ而シテ若シ其法律勅令ニシテ憲法ニ背反スル時ハ其主務大臣若クハ内閣員一同ハ之ガ副署ヲ拒ミ其官職ヲ辭スルカ若クハ副署ノ責ニ任スベシ又米國ノ如ク違憲ノ法律アルトキハ高等裁判所ニ於テ之ヲ破棄スルノ力ヲ有スルアリ又英國ノ如ク憲法ハ法律ノ一ナルヲ以テ己ニ法律タル已上ハ違憲タルノ理ナキアリ又假令違憲ナルモ大臣副署ノ責ヲ負フノミニテ之ヲ無効トナス能ハザルアリ普國憲法三凡ソ法律及命令ハ適法ノ形式ヲ用ヒ

一局議院制及
二局議院制

テ發布セラル、時ハ之ヲ憲法ニ合フモノトス而シテ其之ヲ違憲ト判決スルノ權ハ裁判所ニ屬セズ國會ニ屬ストアリ他ノ歐洲大陸諸國ニテハ裁判所ハ只形式上ノ適法ヲ驗スルノミ内閣ノ更迭ト共ニ事務官ニ至ル迄之ヲ變更スルノ弊ハ現今其跡ヲ絶ツニ至レリ尙ニ是ノミナラス尙一層進ンデ内閣員中ニ於テモ文部農工諸省ノ大臣ハ之ヲシテ更迭スルヲナカシメント主張スルモノアリ

立法院ニ上下兩院ノ區別ヲ設クルハ歐洲一般ニ行ハル、制度タリ而シテ一院制ヲ採用スルモノハ甚ダ少ナク希臘セルビヤ及日耳曼聯邦中ノ小邦ニ存スルノミギゾー氏ハ曰ク一國ニハ土地又ハ動産ヨリ生ズル收入ニ由リテ生活スル人民ト土地モナク資産モナク其勞働ニノミ由リテ生活スル人民アリ而シテ此等ノ元素ガ社會ニ存スル已上ハ各特殊ナル代議士ヲ要ス然

ヲザレバ往々一方ヲ以テ他方ヲ壓倒シ遂ヒニ寡人的暴政トナ
 リ若クバ多數的亂政ニ陥ルベシト然レモ是レ充分ナル説明ニ
 非ズ何トナレバ今ノ上下兩院ノ議員トナルベキ資格ヲ見ルニ
 必ズシモ財産ヲ以テ尺度トナサズ又勞力ヲ以テ標準トナサズ
 蓋シ兩院ヲ置クノ必要ハ必竟其國歴史上ノ關係ヨリ生ジタル
 結果ニ過ギザルノミ

一局議院制設
 ノ利トスル處

今茲ニ一局議院制ト二局議院制ノ利害ヲ知ルノ便ニ供センガ
 爲メニ議論ノ重ナルモノヲ掲クベシ一院ヲ可トスルモノ、論
 ニ曰ク

- 一、法律ハ國民ノ意志ヲ代表スルモノナリ故ニ二院ニシテ同
 一ノ意志ヲ表出スレバ其一ハ無用ナラズヤ若シ二者相異
 ルノ意志ヲ表出スレバ國民ノ意志ハ消滅ストナサハルベ
 カラズ

三十一

二、立法權ヲ分チ掌ルホハ有益ノ改革ヲ爲スノ妨害トナル若
 シ一院ニシテ議員ノ惣數六百ト見做ス時ハ或ル改革案ヲ
 廢案ニ歸セシメンニハ三百一人以上ノ反對ナカルベカラ
 ズ而ルニ若シ議會ニ二類アリテ各三百人ヲ以テナルトセ
 バ僅ニ百五十一ノ反對ヲ以テ其議案ヲ廢棄スルコトヲ得ル
 ニアラズヤ

三、兩院制ニ依ル時ハ立法權ヲ司ルモノ、内部ニ於テ爭論絶
 ヘズ生ジテ政治上危急ナル場合ニ同家ノ幸福ヲ妨グルコ
 トアリト

二局議院制設
 ノ利トスル處

二局議院ノ制ヲ可トスルモノ、論ニ曰ク
 一、一局議院ノ弊ハ思慮足ラズシテ法律ヲ作爲シ若クハ一時
 ノ感情ノ爲メニ適當ノ議決ヲナスニアリ而シテ二局制ハ能
 ク此等ノ弊ヲ除キ且ツ二个ノ觀察點ヨリ思慮スルノ利アリ

リ

二、一局制ノ弊タルヤ議員ノ腦中ニ一致ニ由レバ如何ナル改革タリトモ成就シ得ベシトノ念慮ヲ有セシムニアリ爲ニ
ニ專擅放肆ノ域ニ陥リ易シ

三、兩院共意志ヲ異ニスルハ其間ニ協議ヲ遂グルヲ以テ其結果ハ自然中正ニ歸ス

四、洋ノ東西時ノ古今ニ論ナク一國中ニ貴族的分子ト平民的分子ノ存在スルハ勢ノ免レザル處タリ故ニ一ヲシテ他ノ利害ヲ撲滅セシムルガ如キヲナカシメンニハ理論上ニ
院ノ設ナカルベカラズ_下

裁判官ノ有スル權利

裁判官ハ其掌中ニ法律ヲ應用スルノ力ヲ握リ立法、行政ノ部局及社會ノ破壞的勢力ニ反對シテ確定ノ秩序ヲ保持セザルベカラズ若シ立法部ニシテ一時ノ感情若クハ利害ノ爲メニ違憲ノ

法律ヲ可決スルガ如キヲアテバ立法部ノ外ニ其正否ヲ定ムルノ力ナカルベカラズ然リ而シテ此力ヲ行政部ノ長官ニ與フルハ只法律ヲ發布スベキヤ否ヤノ當時ニ於テスルノミ行政部ノ長官ニシテ違憲若クハ不法ナルヲ知ラザルハ司法部ニ於テ之ヲ匡正スルノ力ナカルベカシズ則チ勅令ニシテ已ニ成立チ居ル法律ニ矛盾スルカ又ハ法律ニシテ憲法ニ抵觸スルノ場合ニ於テ此力ヲ應用セザルベカラズ行政官若シ之ヲ顧ミズシテ其行爲ヲナスルハ高等裁判所ハ其被害者ニ對シ損害ヲ補償セシム我國ノ高等裁判所ハ此等ノ力ヲ有セズ

法律ハ兎角時世ノ變遷人事ノ進歩ニ後レ易キモノナリ故ニ若シ時世ニ應ジ其宜シキヲ得セシメント欲セバ司法官ヲシテ法律ノ解釋ヲ補充擴張セシムルヲ許サザル可ラズ之ヲ目シテ直ニ立法ノ範圍ニ立チ入ルトナスハ大ナル誤ナリ羅馬法ガ今

日歐洲大陸諸國ノ母法トシテ有名ナル所以ハフリートトルニ羅馬ノ法官ガ之ヲ擴張シタルニ因ル國際私法ノ大ニ發達シテ外國貿易ノ進捗ヲ助ケタルモノハ歐洲各國殊ニ和蘭ノ法廷ガ此迄確認サレタル主義ヲ適用シタルニ依ル斯クノ如ク法律ハ時勢ニ從テ其解釋ヲ伸縮シ以テ文明ノ進歩社會ノ變遷ニ應ゼザルベカラズ然ラズンバ朝令暮改遂ニ臣民ヲシテ從フ處ヲ知ラザラシムルニ終ランノミ

第二節 憲法法律命令ノ關係ヲ論ズ

是ヨリ主權ノ現象即チ憲法法律及命令ノ効力ト自治体及自主權ニ屬スル命令ノ効力トヲ論ジ以テ主權ノ作用ヲ明ニセントス

世ノ憲法ヲ論ズルモノ或ハ之ヲ以テ法律ナリトナシ或ハ法律ニアラズトナス共ニ各國憲法ノ法理ヲ知ラザルヨリ生ズル議

憲法ハ法律ナリヤ否

論タルニ過ギズ英國ノ如キハ憲法ハ其体質上及形式上ニ於テ少シモ他ノ法律ト異ルナシ只其利害ノ關スル處重大ナルヲ以テ少シク變更ノ手續ヲ鄭重ニスルノミ故ニ英國ニアツテハ立法ハ司法行政ノ上ニ位ス然カルニ日本及ビ歐洲大陸諸國ニアツテモ憲法ハ立法ノ上ニ位シ立法ハ又司法行政ノ上ニ位ス北米合衆國ニ於テハ憲法ハ立法司法行政ノ上ニ位ス故ニ憲法ハ英國ニ於テハ法律ナリ日本歐洲大陸并ニ北米合衆國ニ於テハ法律ノ上ニ位スル處ノ條規ナリト謂ハザルヲ得ズ之ヲ了解シ易カラシメンガ爲メニ左ニ圖式ニ由リテ之ヲ示サン

日本及歐洲大陸諸國	合衆國	英國
憲法—立法	憲法—立法	憲法—立法
司法行政	司法行政	司法行政
我國ニ於テハ憲法ハ立法ノ上ニ位ス其之ヲ變更スルヤ特種ノ手續ニ由リ其之ヲ公布スルヤ特種ノ方法ヲ用ユ然レモ我國ニ		

於テハ米國ニ於ケルガ如ク憲法ニ背反スル法律ヲ裁判所ニ於テ破棄スルヲ得ルノ明文ナシ故ニ大臣副署ハ唯帝國議會ノ協賛ト天皇ノ裁可ヲ經タル公正書類ナルヲ證明スルニ過ギズトスレバ長レ多クモ違憲ノ責ヲ天皇陛下ニ歸セザルヲ得ズ何トナレバ帝國議會ノ議決ハ天皇ノ裁可ナクンバ何ノ効力モナク裁可ハ即其議決ニ効力ヲ附與スルノ一大要素タルヲ以テナリ是レ君主政体ニ行ハル、天皇ニ匪行ナシトノ原則ニ抵觸シ天皇ノ尊嚴ヲ損スル蓋シ此ヨリ大ナルハナカルベシ故ニ國務大臣副署ノ責任ハ其違憲ニ非ル所以ヲ證明スルモノニシテ大臣タルモノ若シ違憲ナリト認ムル時ハ其副署ヲ拒ミ其職ヲ辭スベキノミ

法律及命令

法律ト命令トヲ區別スルハ至難ノ問題ナリ如何ナル事項ハ之ヲ規定スルニ法律ヲ以テシ如何ナル事項ハ之ヲ規定スルニ命

令ニ依ルベキヲ定ムルハ實際成シ得ベキニアラズ然シバ唯此二者ヲ區別スルノ標目ハ何ニアルヤヲ研究スルヲ以テ足レリトセザルベカラズ其說ニアリ一說ニ曰ク「法律ハ其ノ實質上ヨリ云ヘバ人民ノ權利義務ニ關スル事項ヲ規定シ其形式上ニ於テハ憲法ノ定ムル處ノ手續ヲ蹈ミタルモノナリ」下此ノ說ニ從ヘバ議會ノ議決ヲ經テ後裁可ヲ經タルモノモ人民ノ權利義務ニ關セザル者ハ之ヲ法律トナスヲ得ズ即チ形式上ニ於テハ法律タル資格アルモ其體質上ノ資格ヲ欠クヲ以テ法律ニ非ズトナスナリ二說ニ曰ク「法律ハ其性質全般ニ涉リ且永遠ニ係ル事項ヲ規定シ之ニ反シテ命令ハ一局部ニ關シ若クハ臨時ノ事項ヲ規定スルモノナリ」下此兩說共ニ弱点ナキニアラズト雖モ然レモ第一說ヲ以テ穩當トナスベシ何トナレバ法律モ時トシテハ臨時若クハ一局部ニ止ル事項ヲ規定スルコトアルヲ

以テ第二説ハ區別ノ標目トナスヲ得ザレバナリ凡ソ憲法ニ特ニ法律ノ定ムル處ニ由ルトアル事項ハ決シテ勅令ヲ以テ之ヲ規定スベカラズ而シテ其孰レヲ以テ規定スベキヤ決定メザルモノハ其事項ノ權利義務ニ關スルヤ否ヤヲ看ルベシ若シ命令ニシテ法律ノ規定スベキ事項ヲ規定スルトアルモ法律ハ後ニ其命令ノ効力ヲ無効トナスヲ得ルヲ以テ實際上區別ヲナスノ必用ナク又之ガ爲メニ重大ナル關係ヲ生ズルトナシ命令ニ四種アリ

命令ノ四種
緊急勅令

第一緊急勅令 我憲法第八條ノ規定スル處ニシテ天皇ノ大權ニ屬ス
此ノ勅令ヲ發センガ爲ニハ左ノ諸件ヲ必要トス
一、公共ノ安寧ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル緊急ノ必要アリト認定スルト

二、其當時ニ於テ帝國議會閉會中ナルコト
此勅令ノ効力ハ一時法律ノ効力ヲ停止スルモノニシテ次ノ會期ニ於テ之ヲ帝國議會ニ呈出スルヲ要シ議會若シ承諾セズンバ將來ニ向テ其効力ヲ失フコトヲ公布スベキモノトス然ルニ英國ニ於テハ權利トシテ之ヲ行政部局ニ與ヘズ國家ノ安危ニ當リテハ公共ノ安全ヲ保持シ其災厄ヲ避クル爲メニ法律ヲ破リテモ臨機ノ處分ヲナスコトハ行政部局ノ義務トス故ニ次ノ會期ニ於テ國會ニ向テ贖罪書ヲ呈出シ其罪ヲ許サントナク乞フ議會若シ之ヲ承諾セザルハ國務大臣ハ或ハ其職ヲ辭シ或ハ議會ニ於テ彈劾ヲ受ルヲ例トナス
第二執行勅令 我憲法第九條ニ所謂法律ヲ執行スル爲メニ發スル命令ニシテ固ヨリ法律ノ範圍内ニ於テ活動セザルベカラズ

執行勅令

自立勅令

第三自立勅令 我憲法第九條ニ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ若クハ發セシムトアル命令是レナリ此命令ハ法律ノナキ場合ニ於テ自由ニ發シ得ベキモノタリ然レトモ憲法ニ明言シテ法律ノ定ムル處ニ據ルトアル事項ニ干涉スルトテ得ズ而シテ此命令ヲ以テ規定スル條項ハ已ニ存在スル法律ト抵觸スルトテ許サズ且ツ此命令權ニテ規定シタル事ハ後ヨリ法律ヲ以テ其効力ヲ失ハシムルヲ得ルナリ

天皇ノ大權ニ基ク勅令

第四天皇ノ大權ニ屬スル事項ニ關スル勅令 天皇ノ大權ニ屬スル事項ニ關シ發シタル勅令ノ効力ノ如何ニ就テハ規定スル所ナシ今條約締結ノ事ヲ以テ之ヲ言ハンニ此事タル憲法第十三條ニ由リテ天皇ノ大權ニ屬スルモノタリ而シテ内地人民ニ服從ノ義務ヲ有セシメンニハ唯勅令ヲ以テ條約文ヲ公

布スレバ足ル乎或ハ其法律事項ニ關スルモノハ議會ノ協賛ヲ要スベキ乎之ヲ歐洲ノ現行法ニ徵スルニ或ハ批准ニ先ツテ條約ノ全文ヲ議會ノ議決ニ附スルアリ其中法律事項ニ關スルモノハミテ舉ゲテ議會ニ附スアリ我國ニ於テモ二途一ニ出デザルベカラズ

斯クノ如ク命令ニシテ法律ヲ犯スヲ得ルハ唯緊急勅令アルノミ然ラバ若シ法律ヲ犯スノ命令ニシテ正當ノ手續方法ニ由リテ發布サル、片ハ無効ナルカ將タ有効ナルカ歐洲諸國ニ於テハ若シ命令ニシテ法律ニ抵觸スル片ハ之ヲ無効トナスノ權ハ之ヲ裁判官ニ與フルヲ通例トス我國ニ於テハ憲法ニ明文ナシ然レモ立法ノ尊嚴ヲ保持センガ爲ニハ裁判所ニ此權限ヲ與ヘザルベカラズ

自主權ノ命令

自主權ノ命令 自主權ノ命令トハ地方ノ自治體ニ委任シテ發

自主權命令ノ
四種

セシハル命令ニシテ之ヲ我國市制及町村制ニ徴スルニ兩制ノ
 第十條ニ市又ハ町村ノ事務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特
 例ヲ設クルヲ許セル事項ハ各市又ハ町村ニ於テ時ニ條令ヲ
 設ケテ之ヲ規定スルヲ得 市又ハ町村ニ於テハ其市又ハ町
 村設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルヲ得 市又ハ町村
 條令及規則ハ法律命令ニ抵觸スルヲ得ズ且ツ之ヲ發行スル
 時ハ地方慣行ノ公告式ニ依ルベシトアルハ即チ命令權ニシテ
 英語ニテ「バイロー」ト云ヒ獨逸語ニテハ此令ヲ發スル權利ヲ「オ
 ートノミー」ト云フ

前已ニ勅令ニ四個ノ種類アルヲ述ベタリ今又茲ニ自主權ノ
 命令ニモ同様ノ區別アルヲ示スベシ

第一 自主權ノ命令ハ法律又ハ命令ニ抵觸セザルヲ原則ト
 ス然レモ若シ非常ノ時ニ際シ法律命令ノ効力停止サルハ

四十六

四十七

時ハ之ニ代フベキ命令ヲ發スルハ自主權ニ屬スル命令ノ

第一種ナリ之ヲ緊急勅令ガ法律ヲ破ルト同様ノ現象トス

第二 自治体ハ又法律命令ヲ執行スルノ命令ヲ發ス是レ自

体自主權ニ屬スル命令ノ第二種ニシテ執行勅令ノ法律ニ
 於ケル關係ニ等シ

第三 自主權ニ屬スル第三種ノ命令ハ自立命令ト同様ノ作
 用ヲナスモノニシテ法律命令ノ範圍外ノ事項ニ對シテ發
 スルヲ得ルモノナリ

第四 憲法ニ天皇ノ大權ト定メタル事項ニ關シテハ法律之
 ニ干涉スルヲ能ハザルガ如ク自主權ノ命令ヲ以テ規定ス
 ベキ事項ニシテ特ニ自治体ニ委任シタル特殊ノ事項ニ關
 シテハ命令ヲ以テ之ヲ規定スルヲ得ズ

第三節 代議院ヲ論ズ

代議院ノ性質

第一、代議院ノ性質

夫レ國皇一人ノ意志ハ國家ノ意志ニアラズ代議院多數ノ意志ト相合シテ始メテ國家ノ意志トナルトハ代議制度ノ行ハルハ諸國ガ等シク取ル處ノ法理ナリ然レモ議會ハ自カラ主治者ノ地位ニ立ツベキモノニアラズ唯政府ノ行爲ヲシテ輿論公議ニ制セラレシムルニアリ假令議會ガ自カラ主權ヲ共有シ若クハ分有スルトモ只法律ヲ以テ政府行爲ノ範圍ヲ規定シ豫算ニ由リテ政府活動ノ地歩ヲ制限スルニ過ギズ自カラ立ツテ主治ノ任ニ當ルモノニハアラザルナリ

代議院ニ關スル三學說

法律上代議院ノ性質ニ付キ歐洲公法學者ノ間ニ三種ノ說アリ其一ニ曰ク代議院ハ主權ノ主体ナリトナスモノ其二ニ曰ク代議院ハ他ノ諸官衙ト同シク政務執行ノ一機關タルニ過ギズトナスモノ其三ニ曰ク代議院ハ國民ヲ代表ス而シテ國民ハ統治

ノ客体タルヲ以テ代議院モ亦統治ノ客体ナリトナスモノ即チ是ナリ又第一說ニ二種アリ一ハ英國ニ於ケルガ如ク主權共有制他ハ獨乙ニ於ケルガ如ク主權分有制是ナリ

英國ノ法理
主權共有制

英國ノ法理ニ從ヘバ代議院ナルモノハ上下兩院及國皇ノ三者ヲ含有ス即チ此三者ヲ併セテ主權者トナス故ニ上下兩院ハ國皇ト共ニ主權ヲ共有シ國皇ハ上下兩院ト共ニ國家統治權ノ主体ナリ若シ國皇ト上下兩院ト相一致セバ立法ノ手續ニ由リテ憲法モ之ヲ變廢スルトチ得ベク法律モ之ヲ改正スルトチ得ベク其他如何ナル議決ト雖モ爲シ得ザルモノナシ極端ニ之ヲ論ズレバ君主政体モ明日之ヲ變シテ共和政体トナシ國皇ヲ廢シテ大統領トナスモ唯其欲スル所ナリ斯クノ如キ政体ニ於テハ第一說ハ尤モ適當ニシテ代議院ハ即チ統治ノ主体ナリト云ハザルベカラズ獨乙ニ於テハ國皇ト代議院トハ主權ヲ分有ス而

佛米ノ法理

シテ名義上國皇ノ名ニ於テ總攬スルナリ
 佛蘭西、亞米利加等ノ共和政体ニ於テハ代議院ハ決シテ統治權
 ノ所有者ナリト云フヲ得ズ何トナレバ此等ノ國々ニ於テハ代
 議院ハ法律ノ變廢ヲ爲スヲ得レ其權限ハ憲法ニ制限セブレ
 而シテ其憲法ノ變廢ニ關シテハ代議院之ヲ行フヲ能ハザレバ
 ナリ我日本ノ如キハ帝國議會ハ法律議案及憲法ノ修正案ニ對
 シテ議決ヲナスヲ得レ其議決ニシテ裁可ヲ經ズンバ更ニ
 効力アルヲナシ是ノ故ニ帝國議會ハ實ニ統治權ノ主体タラセ
 ルノミナラズ亦其一部分ヲモ之レ有セザルナリ然ルニ學者中
 第一說ヲ以テ我憲法ヲ説明セントスルモノアリ其論旨ヲ看ル
 ニ曰ク

第一說論者ノ
論旨

「主權ハ天皇獨リ其全部ヲ專有シ玉フモノト云フベカラズ今
 我憲法第五條ニ「天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ」

トアリ又第七十三條ニ「將來此憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要
 アルハ勅令ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ附スベシ此ノ場
 合ニ於テ(中略)出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニアラサ
 レバ改正ノ議決ヲナスヲ得ズ」トアリ又第三十七條ニ「凡
 テ法律ハ帝國議會ノ議決ヲ經ルヲ要ス」トアリ又第三十八條
 ニ「兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及法律案ヲ呈
 出スルヲ得」トアリ又第四十九條ニ「兩議院ハ各天皇ニ上奏
 スルヲ得」トアリ此ニ由テ之ヲ見レバ總テノ法律案及憲法
 修正案ハ帝國議會ノ議決ヲ經ザル已上ハ決シテ之ガ改正ヲ
 ナスヲ得ズ若シ議會ノ議決ニ訴ヘズ或ハ其議決ニ負キテ
 法律案ヲ裁可シ又ハ憲法修正案ニ裁可ヲ與フルモ法力ヲ生
 ゼザルト恰モ裁可ナキノ議決ハ毫モ法力ヲ得ザルト一般ナ
 リ裁可ナキノ議決ハ少シモ法力ナキト同一法理ニ由リテ議

決ナキノ裁可ハ憲法第三十七條ニ背反スル違憲ノ裁可ナリ
 議決ハ裁可ヲ待テ始メテ其法力ヲ得ベク裁可ハ唯已ニ議決
 シタル者ニ與フベキノミ此ノ如ク議決ト裁可トハ互ニ相待
 テ茲ニ始メテ法力ヲ生ズル者ナリ蓋シ議會ハ憲法所定ノ權
 利ヲ占有シ以テ國皇ノ權限ヲ制限ス唯其レ統治權ハ統一ナ
 カル可ラザルヲ以テ天皇其名ニ於テ之ヲ總攬シ玉フノミト
 論者ノ論ズル處其前提ニ於テハ少シモ間然スル處ナシ然レモ
 其結論ニ至リテハ之ヲ賛成スル能ハサルモノアリ固ヨリ議決
 ヲ經ザルモノニ向テ加ヘタル裁可ハ法力ヲ生ゼザルナリ然レ
 モ憲法第一條及第四條ヲ見ルニ統治權ノ所在タル明白決シテ
 爭議シ得ベカラズ反對說ヲ執ル者ハ統治權ナル新語ニ眩迷セ
 ラレ之ヲ以テ政治學上ニ博ク用ヒラル、處ノ主權ナル語ト差
 違アルガ如クニ解シ統治權ヲ以テ憲法ノ範圍内ニ於テ天皇ノ

其批評

有シ玉ヘル權利トナシ之ニ議會ノ權利ヲ合セテ主權ヲ構成ス
 ルガ如クニ妄想セリ夫レ統治權トハ何ゾヤ國家ノ命令權ナリ
 國家ト稱スル法人ニ屬スル支配命令ノ大權ナリ支配命令ノ大
 權トハ法律規則ヲ發シ威力ヲ用ヒテ之ヲ強行スルノ職權ナリ
 反對ノ說ヲ執ルモノハ我憲法第五條ニ「天皇ハ帝國議會ノ協贊
 ヲ以テ立法權ヲ行フ」トアルヲ見テ立法ノ大權ハ天皇ノ專有ニ
 アラズ帝國議會ハ之ヲ分有スルモノナリト速斷セルモノニシ
 テ其妄タルヤ明カナリ固ヨリ議會ノ議決ニ對シ不認可權ヲ實
 行スルガ如キハ頗ル輿論公議ヲ尊重セザルノ甚シキモノナル
 ヲ以テ妄リニ之ヲ行フベキニアラズ然レモ論理上裁可ハ天皇
 ノ決意ヲ積極的ニ表彰シ玉ヒタルモノニ過ギズ去レバ天皇ハ
 議會ノ議決ニ向テ消極的ノ決意ヲ表彰シ玉ハ、議會ハ少シモ
 其行爲ヲナスコ能ハズ斯ノ如クニシテ猶議會ニ立法ノ大權ア

第二説及其批
評

リトナスヲ得ベキ乎故ニ天皇ハ主權ノ本體ヲ有シ玉ヒ其之ヲ
行フニ當テハ憲法ノ條規ニ從テ議會ノ制限ヲ受ケ玉フノミ
論者或ハ第二説ヲ以テ我憲法ヲ解明セントスルモノアリ即チ
代議院ハ他ノ諸官衙ト同ジク政務執行ノ一機關ニ過ギズト云
フ説ヲ執ルモノニシテ是レ壓制ナル君主國ニノミ適用セラル
ベキ法理ナリ此説ヲ執ルモノハ憲法ヲ以テ一種ノ命令トナシ
少シモ制裁ナキモノトナス

我國ノ主權ハ
天皇陛下ニ在
リ

夫レ國皇一人ノ意志ハ國家ノ意志ニアラズ代議院多數ノ意志
ト相合シテ始メテ國家ノ意志トナルコトハ立憲諸國ガ共ニ認定
スル處ノ法理ナリ我帝國議會ハ官衙ニアラズ蓋シ官衙ナルモ
ノハ天皇大權ノ下ニ於テ法律命令ヲ發布執行スルノ脈管タル
ニ過ギス其之ヲ組織スルモノモ亦純然タル官撰官吏ニシテ長
官ノ命惟レ從ヒ少シモ代議ノ性質ヲ有スルコトナシ故ニ樞密院

ノ如キハ政府ノ事項ニ關シテ天皇ノ下附セラルヘキ規則案ニ
接スルモ唯之ガ諮問ニ奉答スルニ過キス其議決ニ背キテ裁可
シ玉フモ可ナリ又之ニ諮詢シ玉ハザルモ可ナリ夫レ斯クノ如
ク諸官衙ハ少シモ統治權ノ作用ヲ制限スルナク又之ヲ組織ス
ルモノ少シモ代議ノ性質ヲ有セズ之ニ反シテ貴族院ハ皇族華
族豪族ヨリ撰バレタル議員ヲ以テ組織シ衆議院ハ士族平民ヨ
リ公撰セラレタルモノヨリナリ以テ公議輿論ヲ代表シ統治權
ノ作用ヲシテ輿論公議ニ從ハシムルモノナリ我憲法第四條ニ
「天皇ハ此憲法ノ條規ニ由リ統治權ヲ行フトアリ左シバ憲法ノ
條規ニ由ラザル作用ハ則チ違憲ノ處分ニシテ正當ナル統治權
ノ作用トナスコトヲ得ズ大臣ハ須シク其副署ヲ辭シ其職ヲ去ル
ベシ蓋シ大臣副署ノ責任ハ内ハ天皇陛下ニ對シ奉リ外ハ帝國
議會ニ對シテ存スルモノナリ若シ之ヲシモ無責任ナリト云ハ

第三説及日本
法理ノ説明

是レ帝國議會召集ノ歴史ヲ知ラズ憲法發布ノ上論ヲ誤解シ
 タルモノト云フベキノミ
 第三説ヲ執ルモノハ曰ク「代議院ハ統治ノ客體ナリ何トナレバ
 統治ノ客體タル人民ヲ代表スレバナリ」ト尤モ我帝國議會ノ眞
 想ヲ得タル説ト云フベシ夫レ代議制度ノ起源タルヤ遠ク惣民
 會議ニ發セリ惣民會議ハ國土狹隘人口寡少ナル地ニ於テノミ
 行フヲ得ベキモノナリ然レモ各個人民悉ク一場ニ會スルガ故
 ニ無智瞶昧ノ徒隨テ其多キヲ占メ一ニ野心ヲ抱藏スル詭辯家
 ノ籠絡ニ陥リ少シモ公議輿論ノ實アルナシ且人口衆多版圖廣
 大ナルニ至ツテハ到底之ヲ行フヲ得ズ故テ以テ勢ヒ利害ヲ
 共ニシ意見ヲ同ジフスル處ノ代議士ヲ選出ソ以テ代議院ヲ組
 織セザルベカラザルニ至レリ左ラバ代議院ナルモノハ惣人民
 自カラ出デ、其意見ヲ吐露スルコト能ハザルヲ以テ代議士ヲ

シテ代テ之ヲ露出セシムルノ均俾タルニ過ギズ我帝國議會ノ
 如キモ三千九百萬ノ人民多數ノ意見ヲ表彰シ以テ主權ノ作用
 ナシテ公議輿論ノアル處ニ傾カシムルモノタリ反對ノ説ヲ執
 ルモノハ之レヲ駁シテ曰ク「已ニ代表ト云ヘバ其選舉者ト被選
 者ノ間ニ本人及代理人ノ關係ナカルベカラズ左ラバ被選人ハ
 選舉人ニ委任サレタル權限内ニ於テ其委任サレタル事項ニ付
 キ指示訓諭ヲ受ケザルベカラズ而ルニ帝國議會議員ハ其選舉
 區撰舉人ヲ代表スルモノニアラズ又一ニ選舉人ノ意見ニ從テ
 動クベキモノニアラズ且ツ選舉權ヲ有スルモノハ人民中ノ少
 數者ニアラズヤ選舉法第六條「下蓋シ選舉人ト被選舉人ノ間ニ
 代理法上ノ本人及代理人ノ關係アルモノニアラズ必竟代理ト
 代表ト同一視シタルヨリ生ズル誤謬タルノミ夫レ被選人ハ
 憲法第五十二條ニ由リ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ關

シ院外ニ其責ヲ負フナシ然レモ選舉人ノ議員ヲ選舉スルニ當テヤ已レト政治上ノ意見ヲ同フシ主義ヲ共ニスルト信ズル人物ヲ投票シ被選人モ亦自己ノ主義意見ヲ公示シテ以テ其選舉人ヲ求メ同主義ノ人同意見ノ輩相結托シテ議員ヲ選出スルヲ以テ假令議員ハ其意見ニ就キ院外ニ責ヲ負ハズ又選舉者モ自己ノ意見ヲ強行セシムルヲ能ハズト雖トモ其議院ニ於ケル意見及表決ハ必竟全國民ノ意志ヲ蒐集表出セルモノニ過ギズ若シ夫レ選舉人ノ資格ニ制限多クシテ其權利ノ一般人民ニ及バザル所以ハ目下人民政治志趣ノ進歩智力發達ノ程度等ノ觀察ヨリ生ジタル政治上ノ一方便ニ過ギズ今若シ全人民ニ悉ク選舉權ヲ與ヘンカ却テ二三野心ヲ抱藏スルモノ或ハ金錢ヲ用ヒ或ハ威壓ニ由リテ其奸策ヲ逞フシ投票買賣等ノ弊盛ニ行ハル、ニ至リ公議ヲ表セシムルヲ能ハザルベシ故ニ反對ノ説ヲ

代議院ノ官能

議會ノ官能ノ分派

執ルモノガ選舉權ノ制限ヲ喋々スルモノハ之ヲ制限スル方却テ公議ヲ表セシムルノ好方便ナルヲ覺ラサルニ由ルナリ是ニ由テ之ヲ觀レバ我帝國議會ノ如キハ代議院ノ第三説ヲ以テ尤モ能ク説明シ得ベキモノタリ則チ統治ノ客体タル人民ノ輿論ヲ代表シテ以テ統治權ノ作用ヲ制限スルノ代議府タルナリ

第二 代議院ノ官能

三權分立論ノ行ハレタル時ニ當ツテハ代議院ヲ以テ一ノ立法府トナセリ即チ立法權ヲ專有スルモノトセリ然レモ現今ニ於テハ英國ノ如ク國會ヲ以テ立法權ノ本據トナス邦國ヲ除キテハ他ニ之ヲ認ムル國ナシ而シテ一般ニ議會ハ法律ノ議定ニ參與シ他ノ政務ニ直接若クバ間接ニ關與スルニ至レリ

今議會ノ官能ヲ列舉センニ

- 一 法律事項 新法律ヲ制定センニハ議會ノ協賛ヲ要ス(我

憲法第三十七條) 議會ハ法律案呈出ノ權ヲ有ス(我憲法第三十八條)

二 財政事項

甲 一會計年度毎ニ歳出入豫算ノ議決ヲ經ルヲ要ス(我憲法第六十四條)

乙 新ニ租稅ヲ賦課シ又ハ公債ヲ起ス時ハ其協賛ヲ要ス(我憲法第六十二條)

三 主權ノ作用ニ對スル一般ノ監督

甲 法律又ハ其他ノ事件ニ付其意見ヲ政府ニ建議スル權ヲ有ス(我憲法第四十條)

代議院ノ組織

權限

第三 代議院ノ組織權限

一 上下兩院ニ通ズル規則

甲 上下兩院ハ議決ヲナス權、法律案ヲ提出スルノ權、上奏

ノ權、建議ノ權、質問ノ權、等ニ關シテ各別ニ之ヲ有ス

乙 上下兩院ノ一致シタル表決ヲ以テ全國民ノ輿論ヲ代表スル者トナスヲ原則トス

丙 開會、閉會、會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ行フモノトス(我憲法第四十四條) 下院解散サル、時ハ上院ハ同時ニ停會ス(同上)

丁 議案ハ上下兩院ノ中孰レヲ先ニスルモ可ナリ豫算ニ限リ先ヅ下院ニ呈出スルヲ例トス(我議院法第五十三條) 上院ハ豫算修正權ヲ有セズシテ之ヲ全体ニ廢棄スルニアラザレバ則之ヲ採用スルハ英國ニ源ヲ發シ諸國ニ波及シタリ必竟豫算議決ヲ逐一ニ兩院ニ於テ議決スルルハ非常ニ時日ヲ要シ實際上左程ノ効驗ナキヨリ起リタルモノナレバ我國ニ於テハ此主義ヲ採用セズ

上院ノ組織

戊 一人ニシテ同時ニ兩院ノ議員トナルヲ禁ズルハ諸國大抵相同シ我憲法第三十六條附記日本ニ特有ナルトハ華族ノ當主ハ衆議院ノ選舉人及被選舉人タルヲ得ズ(衆議院議員撰舉法第十六條)トアルト是ナリ伯子男爵ノ五選ニ漏レタルモノハ兩院ノ孰レニモ列スルヲ得ザル譯ナリ

二 上院ノ組織

上院ノ組織各國歴史上ノ理由ヨリシテ其制チ一ニセス然レモ國民ノ高等階級者中ヨリ特撰若クハ選舉サル、點ニ於テハ萬邦其轍チ同フス

其組織ヲ概述セン

甲 憲法ニ依リテ世襲ノ權利チ有スルモノ

乙 國皇ノ特許ニ由リ世襲ノ權利チ有スルモノ

下院ノ組織

丙 國皇ガ終身任命シタルモノ

丁 市府、大學校及其他ノ法人ヨリ直接ニ選舉サレタルモノ若クハ候補者ヲ指名推薦シ國皇ノ裁可ヲ經タルモノ

戊 國家若クハ寺院ノ高官タルノ故ヲ以テ其職務上ヨリ上院議員タルモノ

以上ハ歐洲各國ノ組織中ノ重ナルモノヲ列舉シタルモノナリ其選舉法ノ如キモ英國ノ如ク互選法ト選任法トヲ兼用スルアリ佛國ノ如ク複選法ニ依ルアリ白耳義ノ如ク全ク選舉ニ由レテ其方法ノ細目ニ至リテハ下院選舉ト異ルアリ丁抹及諾威ノ如キハ上下兩院共其選舉ニ於テ少シモ異ル處ナク第一期ノ會ニ於テ抽籤ヲ行ヒ其議員ノ四分ノ一ヲ上院議員トシ四分ノ三ヲ下院議員トナスガ如キ特異ナル方法ヲ採用ス

三 下院ノ組織

下院ノ議員ハ一定ノ時限間選舉ニ由リテ之ヲ任ズルヲ例トス
 而シテ其方法ニ至リテハ各國其轍ヲ一ニセズ英國ニ於テハ千
 八百八十五年已降大ニ舊慣ヲ去リ全國ヲ均一ノ選舉區ニ分チ
 人口ニ比例シテ議員ヲ選出スルニ至レリ而シテ此人口ニ比例
 スルノ法ハ米國ヨリ佛國ニ入り全歐洲ニ波及シタルモノナリ
 選舉區ノ區域ハ固ヨリ時世ノ變遷ト邦ノ發達トニ由リテ變更
 ナキヲ得ザレド屢々之ヲ變更スルハ策ノ得タルモノニアラズ
 選舉區ハ廣キニ過ルモ宜シカラズ狹キニ過ルモ亦宜シカラズ
 今假リニ或ル縣内選舉人ノ數ヲ三萬人トシ其中二萬人ヲ保守
 黨トシ一萬人ヲ進歩黨トセヨ然ラバ進歩黨ハ常ニ保守黨ノ壓
 スル所トナリ一人ノ議員モ之ヲ出スコト能ハサルガ如キコト
 ナシトセズ而ルニ若シ其縣ヲ區分スル時ハ保守黨多數ヲ占ム
 ル區モアラン進歩黨多數ヲ占ムル區モアラン此ノ如クニシテ

六十一

六十五

選舉投票法ノ種類

一縣ヨリ兩黨ノ議員并ビ出ルノ利益ヲ看ン之ニ反シテ選舉區
 狹キニ過グル時ハ威壓賄賂等ノ弊行ハレテ情實ノ選舉ヲナス
 ノ害ヲ看ン現ニ我國ノ選舉區ノ狹キニ就キ議論頗ル盛ナリ
 現今歐米各國ニ行ハル、所ノ選舉法及ビ學者ガ主唱スル所ノ
 モノ其種類甚ダ多シ今重要ナルモノヲ論述セン

積聚投票

一、積聚投票 今茲ニ一區三名ヲ出ス區アリトスレバ選舉人ハ
 或ル一人ニ向テ一票二票若クハ三票ヲ投ズルヲ得ベキ制ヲ
 云フ必竟少數黨派モ其全力ヲ併セテ自己ノ候補者ニ投ズレ
 バ多數黨派ノ爲ニ壓倒サル、ノ憂ヲ避クルヲ得

制限投票

二、制限投票 「プロフェツソル、グレーク」ノ發明シタル方法ニシテ
 「丁抹」ブラジル及英國等ニ一時行ハレタルアリキ此法ニ依
 レバ今三名ヲ選出スベキ一區アリトスレバ其區ノ選舉人ハ
 各々二名ヲ選舉スルナリ此法モ亦少數ヲシテ多數ノ壓倒ヲ

代作投票

免レシメントノ精神ニ出デタルモノナリ
 三代作投票 「ウオルター、バーレー」氏ノ立案ニ係ル此法ニ從ヘ
 バ名望アル人ハ選舉シ得ラル、ニ必要ナル定數即チ選舉人
 ノ數ヲ選出スベキ議員ノ數ニテ除シタルモノヲ云フ此ヲ英
 語ニテ「クオーター」ト云フ以上ノ投票ヲ受クルコアル時ハ之ヲ
 自黨ノ他ノ候補者ニ隨意分與スルヲ得ルナリ此法ハ理論ニ
 偏シ實際ニ行ハレ得ベキモノニアラズ

「トーマス、ヘ
 ヤー」氏ノ法

四、「トーマス、ヘヤー」氏ノ立案ニ係ルモノニシテ「ミル」氏「ホーセツ
 ト」氏ノ賛成シタル法ナリ此法ニ依レバ投票人ハ先ヅ第一ニ
 選バント欲スル人名ヲ記シ次ニ其好惡ノ順序ニ從テ候補者
 ノ連名ヲ記シ置クモノトス而シテ其候補者ハ廣ク全國中ニ
 求ムルコトヲ得而シテ被選ニ必要ナル定數ヲ得タル第一位者
 ハ悉ク當選シ其餘ハ之ヲ第二位ヨリ取り尙不足アル時ハ第

公示投票ト秘
 密投票

三位第四位ニ及ボスモノトス此法ハ選舉上ニ混雜ト費用ト
 チ來シ且ツ全國ノ人士中何人が果シテ適任ナルヤヲ判別ス
 ルコト頗ル難ク勢選バルベキ人物ヲ示ス爲ニ委員ヲ設クルノ
 必要ヲ生ジ自然選舉者ノ自由意志ヲ束縛スルニ至ルベシ
 五、投票ニ公示ト秘密トノ二種アリ公示トハ公然其候補者ヲ指
 定スルモノニテ或ハ言語ヲ用ヒ或ハ帳簿ニ記名ス秘密トハ
 「通例投票紙ニ記載シテ之ヲ投票函ニ投入スルナリ秘密ノ利
 ハ自己ノ欲スル人々ヲ投票スルコトヲ得ルニ在リ公示ノ害ハ
 威壓ノ爲ニ制セラレテ止ムヲ得ズ恩人故舊ヲ選ブニアリ
 六、選舉ニ過半数ヲ原則トスル處アリ比較多數ヲ原則トスル處
 アリ過半数ヲ原則トスル處ニテ若シ過半数ヲ得ル能ハザル
 時ハ或ハ再ビ投票ヲ行ヒ尙之ヲ得ル能ハザル時ハ比較多數
 ニ由リ而シテ若シ同數ナルハ八年齡若クハ抽籤ニ由ルアリ

過半数制ト比
 較多數制

單選ト復選

或ハ過半数ヲ得ザルハ其最少得點者ヲ除キテ再選舉ヲ行ヒ而シテ尙過半数ニ達セザレバ又其中ノ最少得點者ヲ省キテ之ヲ行ヒ終ニ過半数ヲ得ルニ至テ止ムアリ

七、單選ト復選 單選トハ選舉人自カシ被選人ヲ選舉スルヲ云ヒ復選トハ選舉人先ヅ委員ヲ選ビ其委員ヲシテ被選人ヲ選バシムルヲ云フ古ハ復選法盛ニ行ハレシモ現今ニ至リテハ單選法其勢ヲ下院議員選舉ヲ得ルニ至レリ復選ノ利益トシテ唱道サル、處ハ委員ニ選舉セラレタル少數選舉者ハ多數選舉者中ヨリ粹ヲ抜キタルモノナルヲ以テ適任ノ人ヲ選舉スルノ技能アリト云フニアリ其弊害トシテ反駁サル、點ハ選舉者ノ多數ヲシテ最終選舉ニ與ラシメザルヲ以テ勢ヒ其少數選舉者ト利害ヲ一ニスルモノヲ選ブト云フニアリ

普通選舉ト制限選舉

八、普通選舉及制限選舉 普通選舉トハ丁年已上ノ男子ニシテ

行法權

法律上公權アルモノニ悉ク選舉權ヲ與フル制ヲ云ヒ制限選舉トハ財產若クハ教育上ノ制限ヲ選舉上ニ置クノ制ヲ云フ選舉權ト被選舉權トハ其制限上左シタル差違ナシ唯被選舉權ノ方少シク年齢及財產ノ程度ニ於テ高キノミ概近ニ至リ住居ハ被選舉權ニ必要ナラザルヲニ至レリ、官吏ノ被選舉權ニ關シテハ各國其轍チ一ニセズ其恐ルベキ點ハ官吏タル故ヲ以テ選舉ニ關シテ種々ノ便利アルヲ、政府ハ之ニ位勳ヲ與ヘ或ハ之ガ官職ヲ進メテ其歡心ヲ買ヒ以テ政府黨ヲ作ルノ弊アルヲ、其職務上上官ニ服従スベキモノナルニ議會ニ於テハ獨立不羈ノ意見ヲ表出スルヲ得ルヲ等ニアリ

第四節 行法權ヲ論ズ

行法ヲ分チ左ノ數種トス

甲 列國交際事項即外務行政

乙 臣民身体及經濟上ノ安全ヲ保持スルモノ即内政
丙 司法

此三箇ノ目的ヲ達センガ爲メニ左ノ二種ノ行政ヲ要ス
丁 海陸軍兵政即軍務行政

戊 財政事項即財務行政

此ヨリ先ツ國皇ノヲ記シ次ニ中央政府、外務行政、内務行政、
司法行政、財務行政、軍務行政、及行政監督ヲ叙述スベシ

國皇

第一 國皇

國皇ノ大權

國皇ハ統治權ヲ總攬ス統治權ハ性質上委任サレタルモノニア
ラズ國內ニ行ハル、權ハ皆此統治權ノ一部ニ過ギズ國皇ハ臣
民ニアラズ是レ大統領ト異ナル所以ナリ
其權利左ノ如シ
行政各部ノ總轄及ビ文武官ノ任免ヲ司ル、公共ノ安寧ヲ保持ス、

國皇ノ個人的
ノ權利

法律ヲ裁可シ其公布執行ヲ命ズ、司法權ヲ行ハシム、執行命令ヲ
發ス、大赦特赦復權等ヲ命ズ、宣戰講和條約締結陸海軍ノ編成及
其統帥ヲ司ル、大權ニ基ツケル已定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ
又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ帝國議會ヲシテ安リニ
之ヲ廢除又ハ削減スルヲ得セシメザル財政上ノ權利アリ
國皇ニハ責任ナシ是レ國皇ハ統治ノ主体ニシテ客体ニアラズ
トノ原則ヨリ出デ來ル結果ナリ

國皇ハ政治上ノ行爲ニ付テ責任ヲ負フヲナシ國務大臣副署ノ責
ニ任ズルノミ、國皇ハ刑事上ノ行爲ニ付キ責任ニ任ズルヲナシ、國
皇ニ對スル民事上ノ訴ハ財産監督者ヲ相手取ルナリ、國皇ハ神
聖ニシテ犯カスベカラス故ニ刑法中特ニ正條ヲ設ケ危害ヲ加ヘ
又ハ加ヘントスル者ハ共ニ死刑ヲ以テ之ヲ罰スルヲ常トス、國
皇ハ尊稱ヲ用ユ犯ス者ハ之ヲ罰ス、國皇ハ皇族ノ家長權ヲ有ス

不認可權ノ三種

不認可權ニ三種ノ別アリ

第一種ハ絶對的ノ不認可權ニシテ日本及英國ニ於テ見ル處ナリ英國ニ於テハ國皇此權ヲ有シタリシモ現今ニ至リテハ稍々制限ヲ受クルニ至レリ即チ國皇ハ議會解散ノ權ヲ有スレドモ若シ再ビ召集シタル國會ニ於テ尙ホ前説ヲ固執スルトキハ内閣ハ其職ヲ辞スルナリ日本ニ於テハ天皇ノ不認可權ハ最終ニシテ争フベカラザルモノナリ

第二種ハ制限的ナルモノニシテ米國ニ於テ大統領ノ有スル不認可權ノ如キ是レナリ大統領ハ國會ノ議決ニ付キ不服アルトキハ其理由ヲ記シテ返附ス而シテ國會ニ於テ若シ三分ノ二ノ多數ニ由リテ再ビ之ヲ可決スルトキハ大統領ハ其法令ヲ頒布セザルベカラズ

第三種ハ諾威ノ憲法ニ於テ看ル處ニシテ唯會期中決議ノ効

中央政府

第二 中央政府

力ヲ中止スルノミニシテ若シ次ノ二會期ニ於テ再三可決スルトキハ國皇ハ不認可權ヲ行フヲ得ズ

往昔ハ國皇萬機ヲ親ラシ近侍之ヲ輔佐スルニ過ギサリシガ十二世紀以來樞密院ナルモノ設置セラレタリ當時樞密院ハ實ニ立法行政ノ中心ニシテ實際ハ又司法ノ官能アリ後チ封建制度破レテ中央集權行ハレ樞密院ノ權勢益々盛ニシテ國皇ノ大臣ハ唯其決議ヲ執行スルニ止マレリ此制英國ニ於テハ千六百八十八年ノ革命ニ至ルマデ行ハレ大陸諸國ニ於テハ十八世紀ノ末ニ至ルマデ行ハレタリシガ立憲政治ノ發達ト共ニ樞密院ノ職掌ハ分レテ國會内閣及高等裁判所ノ官能トナリ現時樞密院ハ國皇諮詢ノ府タルニ過ギザルナリ

外務行政

第三 外務行政

外交ノ事務

外國ニ向テ一國ヲ代表スルモノハ國皇ナリ
 外交ノ事務ハ凡ソ下ノ如シ一、宣戰講和 二、公使ヲ受ケ及ヒ之
 ナ派遣スルヲ 三、他國ニ滞在スル自國民臣ヲ保護スルヲ 四、
 條約ヲ締結スルヲ而シテ國皇ハ其外交權ヲ行フニ當テ一方ニ
 ハ外務大臣ノ輔弼ヲ得一方ニハ公使及領事ノ輔佐ヲ受ク
 公使ニ四類ヲ分ツトハ千八百十四年ノ、ヅンナ會議ニ由テ定マ
 レリ一チ全權大使アンバサドルト云ヒニチ全權公使エンボイ
 エンド、ミニスタート云ヒ三チ辨理公使ミニスター、レシデント
 ト云ヒ四チ代理公使シヤーチダフエアト云フ領事ニ二種ア
 リ一チ派遣領事ト云ヒ一チ名譽領事ト云フ領事ハ通商船舶ノ
 事務ノ外ニ司法及警察權ノ幾分ヲ有ス治外法權ヲ有スル國ノ
 領事ハ始審ノ裁判官タルヲ例トス
 條約締結權ハ國皇ニアリ然レモ事項ノ立法ニ屬スル者ハ之ヲ

條約締結權

領事ノ種類及
其事務

公使ノ種類

批准スルニ先ツテ之ヲ國會ニ提出シ其議決ヲ經ザレバ內國臣
 民ニ向テ効力ヲ有スルヲナシ獨乙ニ於テハ條約ヲ締結センガ
 爲ニハ國皇ハ聯邦議會ノ承諾ヲ求メ内部ノ効力ヲ得ンガ爲ニ
 ハ批准前ニ國會ノ協賛ヲ得ザルベカラス米國ニテハ唯元老院
 ノ承諾ヲ以テ足レリトス日本ニ於テハ憲法ニ明文ナシ

内務行政

第四、内務行政

内務行政ノ官能

内務行政ノ官能別テ二トナス

一、積極的方法ニ依リテ人民ノ發達ヲ計ルヲ(狹義ノ意味ナ
 ル内務事項)

二、人力及ビ自然力ニ因ル危害ヲ防衛シ若クハ排除スルヲ
 (警察事項)

内務事項

一、内務事項

内務事項ヲ分ツト左ノ如シ

其一、人身上ニ關スル事項

甲、肉体上ニ關スルモノ

(一)、生死移轉人口統計等ノ登記

(二)、貧民救助

(三)、公共衛生

(四)、公共ノ保安(火災洪水等)

乙、精神上ニ關スルモノ

教育、美術、道德、宗教

其二、經濟上ニ關スル事項

甲、交通、交換、保險等

乙、農、工、商、牧畜、森林、漁業、礦山等

而シテ内務事項ハ中央政府ニテハ事務ニ從テ省ヲ分チ各省ハ其事務ニ關シテ全國ニ指揮ス而ルニ地方政廳ニアツテハ長官

(府縣知事等)ガ全内務事項ニ關シテ監督ヲナス
今之ヲ解シ易カラシメンガ爲メニ圖式ヲ以テ示スコト左ノ如シ



村町(町村長等)

地方自治

「グナイスト」氏ノ自治ノ定

余輩ハ地方制度ニ説キ入ルノ繁ヲ避ケ唯茲ニ地方自治ノ何物タルヤヲ知ラシメンガ爲メニ諸家ノ定義ヲ掲ゲ

「グナイスト」氏曰ク「自治トハ法律ノ範圍内ニ於テ名譽官ヲ以テ其地方ノ費用ニ由リ地方ノ行政事務ヲ處理スルヲ云フ」ト此定

義ハ穩當ナラズ名譽職ヲ以テ自治ノ一要素トナスヲ以テナリ
名譽官ハ自治ニ要用ナリ然レレ決シテ必要欠クベカラザルモ
ノニアラズ

我市町村制理由書自治ノ定義ニ曰ク

市町村制理由
書ノ定義

「自治トハ國ノ法律ニ遵依シ名譽職ヲ以テ事務ヲ處理スルヲ云
フ」ト此定義ハ「グナイスト」氏ノ定義ト大同小異ノミ

「ラバンド」氏
ノ定義

「ラバンド」氏ノ定義ニ曰ク

「自治トハ法律ノ範圍内ニ於テ地方ノ團結体が獨立自由ニ事務
ヲ處分スルヲ云フ」ト此ノ定義ハ重キヲ獨立自由ニ事務ヲ處分
スト云フ「トニ置キ少シモ人民ノ政務ニ參與スルヤ否ヤヲ論セ
ズ故ニ獨乙及合衆國ノ各洲ノ如キモ此定義中ニ含蓄スル「ト」ヲ
得ルナリ

「マイエル」氏
ノ定義

「マイエル」氏調和的定義ニ曰ク

「スタイン」氏
ノ定義

「自治トハ地方ノ行政事務ヲ法律ノ範圍内ニ於テ其地方ノ費用
ヲ以テ職業トセザル吏員ガ處理スルヲ云フ」ト

「スタイン」氏ノ定義ニ曰ク

「自由トハ法律ニ從ヒ地方團體ヲナス人民ガ地方ノ行政ニ參與
シ地方ノ費用ヲ以テ事務ヲ處理スルヲ云フ」ト

警察事項

二、警察事項

夫レ警察ハ法律ヲ破ルノ危害ヲ避ケ及危害ヲ蒙ラザル様公衆
ヲ保護ス而シテ司法警察ハ司法事務ノ補助ヲナス
警察ハ法律ノ範圍内ニ於テ左ノ事項ヲ行フ

- (一) 刑事警察 刑事ニ關スル罪人逮捕等ノ事ヲ司ル
- (二) 保安警察 公安ヲ保持シ公共ノ風俗ニ關スル秩序ヲ保持ス
ルヲ司ル

非常ノ危害ヲ避ケンガ爲ニハ戒嚴令ヲ布ク「ト」アリ斯ル時ニハ

逮捕家宅搜索集會結社出版ニ關スル法律上ノ規定ハ悉ク其効力ヲ中止セラレ行政權ハ全ク軍務官ノ手ニ歸シ公安ヲ害スル罪ハ其刑ヲ重クシ之ヲ處分スルニ通常裁判所ニ於テセズシテ司法官ト軍務官トノ混合ニ由リテ成レル軍事裁判所ニ於テ之ヲ行フヲ例トス

司法行政

第五 司法行政

司法權ナル語ハ裁判權ナル語ヨリ其用方狹シ何トナレバ裁判權ハ主權ノ作用ニ原ツケルアラユル法律ノ適用ヲ指シ司法權ハ唯司法裁判所ノ活動ノミテ云フヲ以テナリ

歷史上裁判所ノ司リシ事項

歷史上裁判所ガ司リシ事項ハ左ノ如シ
 (一) 個人私權ノ毀損セラレ又ハ其私權ニ關シ爭訟アル時裁判所ノ判決ニ由リテ之ヲ回復シ若クハ之レガ確認ヲナス
 (二) 罪惡ニヨリテ法律ニ規定セル社會ノ秩序ヲ紊亂シタル時ハ

國上二個人間ノ私法上ノ争

刑法ニ從ヒ罪人ヲ懲罰スル

三 行政事項ノ中特ニ司法上ノ智識ヲ必要トスルガ故ニ司法々廷ニ委任シタル裁判權

一個人ト公權ニ關スル判決ハ現今ニ於テハ行政裁判所之ヲ行ヒ司法々廷ヲシテ之ニ與ラシメズ

自國法廷ノ外ニ法廷ヲ認メズトハ現今獨立國ノ主義ナリ治外法權ノ如キハ例外ト云フベシ

若シ國家ト一個人ノ間ニ私法上ノ争起ル時ハ其手續タル尋常私法ノ手續ニ依ラズ其ノ間ニ種々ノ制限ヲ設ケ英國ニ於テハ第一ノ推測ハ先ヅ一個人ヲ非理者ト認メ最初ニ「アトリー子」セ子ラル」ニ訴ヘ若シ之ヲ至當ト認定シタルトキハ尋常裁判所ニ移スモノトス是レ臣民ガ主權者ヲ訴フルハ非理ナリトノ考ヨリ來リタルモノナリ獨乙ニ於テハ原告被告ノ間ニ少シモ區別

司法々廷ト行
政法廷トノ權
限爭

ヲ設ケズ米國ノ各洲ニ於テハ之ヲ要求裁判所ニ提出セシム
司法々廷ト行政裁判所ノ間ニ或ル事件ニ關シテ爭ヲ起スヲア
リ其爭ニ二種アリ

(一)ハ兩裁判所共ニ其事件ヲ已ガ裁所權内ニ引キ入レントス
ルモノ

(二)ハ兩裁判所共ニ其事件ヲ已ガ裁判權外ニ排除セントスル
モノ

斯ノ如キ場合ニハ如何ニ之ヲ處分スベキヤハ實際屢々起ル
處ノ問題ニシテ又尤モ處置ニ苦ム處タリ之ヲ處分スルノ法
四アリ

(甲) 中央政府即内閣之ヲ裁決ス 何トナレバ中央政府ハ此
兩權ヲ併有スレバナリ古佛蘭西獨乙ニ於テ行ハレタル方
法ニシテ尤モ實行シ易キモノナリ

(乙) 參議院ニ於テ之ヲ裁決ス 此法ハ今世紀ノ初頃佛國ニ
行ハレタル制ニシテ今日意大利ガ採用スル處タリ

(丙) 通常裁判所ヲシテ之ヲ裁決セシムベキ制 此説甚ダ非
難多シ何トナレバ此ハ行政裁判所ヲ壓シタル者ニシテ且
兩裁判所ガ共ニ其事件ノ裁決ヲ拒絕シタル場合ニ於テ之
ヲ強行セシムルヲ得ザレバナリ

(丁) 同數ノ司法官及行政官ヨリナル所ノ特別ナル裁判所ヲ
設ケ之ヲシテ裁決セシムベキ制 此制ハ千八百四十七年
普國ニ輸入セラレ其翌年佛國ニモ行ハレシ制ニシテ尤モ
適當ナル方法ト云ハザルヲ得ズ此法ニ從ヘバ兩法廷ノ一
ガ其裁決ノ未ダ下ラザルニ當テ故障ヲ申立ツルルハ直ニ
其裁判ヲ中止シ此法廷ニ移スナリ

日本ノ處分

明治二十三年六月廿八日勅令第四十八號行政裁判法ヲ案

ズルニ

第二十條 行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自カラ之ヲ決定ス行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ストアリ

第四十五條 第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス 裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル處ニ據ルトアリ

是ニ由テ之ヲ觀レバ我國ニ於テハ第四ノ方法ニ由リ特ニ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁決スルモノタリ權限裁判所ノ組織ハ未ダ之ヲ知ルヲ得ザレモ司法官ト行政官トヲ混和セザレバ實際ニ不都合ナルヤ明カナリ

檢事ナルモノハ其起源佛國ニアリ即チ中世ニ於テ國王ガ罰金徵集等自己ノ個人的利益ヲ保護セシメンガ爲メニ臨時任命シ

檢事

財務行政

英國豫算法ノ沿革

タル財政官ニ過キザリシガ年ヲ經ルニ從ヒ國王ノ利害ニ關シテ一般ノ監察ヲナスニ至リ十七世紀ニ及ンデ確定シタル官吏トナリ千八百八年佛國ノ刑法ニ依リテ愈其權限ヲ確認セシレタリ其職務甚ダ多シト雖モ其中重要ナルモノハ國家ニ代リ刑法上ノ秩序ヲ紊亂スルモノヲ求刑スルニアリ

第六 財務行政

財務行政ヲ論ズルニ當テ先ツ豫算法ノ沿革ヲ略叙スベシ其起源ハ英國ニアリスチユアルト王朝國會ヲ壓服セント計リシカバ國會ハ租税ノ支出ニ關シ特別ノ目的ヲ指定スルコトノ權利ヲ要求セリ十七世紀ノ末十八世紀ノ初メニ國會ハ其ノ權利ヲ得ルニ非レバ全ク租税ヲ決議セズト主張セリ是ニ於テカ豫算制度ナルモノ起リ千七百十七年ニ特別收入ト稱スル者定リ千七百八十七年「ピット」固定收入ヲ設ケ公債ノ償却利子等ニ關ス

ル費用裁判所ノ費用皇室ノ費用恩賜年金等ヲ支辨スルニ至レ
 リ斯クノ如ク最初ハ逐一ニ其ノ支出ノ用途ヲ指定セシモノモ
 漸次固定ノ範圍ヲ増シ遂ニ現今ニ於テハ全收入ノ八分ノ七ハ
 此固定收入ニ屬シ僅ニ殘餘ノ八分ノ一ノミ年々國會ノ議決ヲ
 要スルコトナレリ英國ニテ豫算ナルモノハ豫算表ノミヲ云フ
 ニアラズ大藏尙書ガ呈出スル處ノ財務行政ノ摘要書ヲモ之ヲ
 含ム豫算ハ法律ノ形式ヲ具フト雖モ其性質上ヨリ云ヘバ政務
 ノ各部局ニ向テ發スル主權者ノ一般行政命令ナリ

佛國ニ於ケル憲法ノ理論ヲ見ルニ「コンスタント」氏ハ曰ク「立憲
 政體ノ立憲政體タル所以ハ國家收入支出ノ全額ニ關シテ毎年
 之ヲ議決スルニアリ故ニ國會ハ隨意ニ豫算表中ノ如何ナル項
 目ヲモ削除スルコトヲ得ベシ」ト此論タル頗ル極端ニ失シ理論ヲ
 顧ミズ歴史ヲ察セズ實際ノ不都合ヲ考ヘザルモノト云フベシ

「コンスタント」氏ノ豫算
 ニ關スル意見
 及其批評

豫算法ノ本源タル英國ヲ見ルニ其憲法上ノ習慣ニ於テ豫算ヲ
 削除スルコトハ違憲ノ處置ト見做セリ且ツ豫算ハ前已ニ述ベタ
 ルガ如ク法律ノ形式ヲ具フルト雖モ其實一種ノ勅令ニ過ギズ
 故ニ勅令ヲ以テ法律ヲ左右スルコト能ハザルヤ明白ナリ故ニ法
 律ノ結果若クハ法律上政府ノ義務ニ屬スベキモノヲ排除スル
 ハ勅令ノ結果ヲ以テ法律ヲ動かカスモノニアラズシテ何ゾヤ且
 ツ實際ニ於テ削除ヲ許ス時ハ政府ハ永遠ヲ期シ一定ノ目的ヲ
 立テ、政務ヲ執行スル能ハザルニ至ラン

豫算ノ議決ヲナスニ二法アリ一ハ英國ニ於ケルガ如ク直ニ通
 常會ヲ變ジテ全院委員會トナスモノト二ハ普國ニ於ケルガ如
 ク撰任委員ヲシテ調査セシムルモノ是ナリ
 我國ニ於テ憲法第六十七條已定ノ歳出ニ付キ頗ル議論アルヲ
 以テ茲ニ一言シ置クベシ

豫算議決ノ二
 法

已定ノ歳出ニ
 付キ批評及意
 見

已定トハ如何ナル時期ニ於テ已定ナルヤニ關シテ說多シ今其
一二ヲ舉ゲン

(一) 明治二十二年二月十一日即チ憲法發布ノ已前已ニ定マリ
居ルモノトナス說 是レ尤モ薄弱ナル說ト云フベシト何ト
ナレバ憲法ハ已ニ發布サレタルモ帝國議會招集ノ時ニ至ル
マデ効力ヲ有セザルモノナレバ憲法中ノ規定ヲ効力ナキ時
期ニ遡ラシムルコトハ法理上爲シ得ベキコトニアラザレバナリ
(二) 憲法施行ノ前ト後トヲ論ゼズ豫算提出ノ前ニ已ニ定マレ
ルモノ(伊藤伯憲法義解此說亦弱點ナキヲ得ズ何トナレバ此
說ニ從フ時ハ政府自由ニ已定歳出ノ項目ヲ變更シ其ノ金額
ヲ増減スルヲ得レバナリ

國家ノ財源タル國有財産官有地、鐵道、鑛山、森林、製鹽場、製造所其
他之ニ類スル財産ニ關シテハ普國ニ於テハ國會ノ協賛ナクシ

國有財産處分

テ之ヲ賣却スルコトヲ得ズトノ規定アリ而ルニ我國ニ於テハ憲
法ニ明文ナク法律ニモ亦明文ナシ故ニ政府ハ隨意ニ國有財産
ヲ賣却シ得ルモノトナサザルヲ得ズ已ニ然ル以上ハ政府ガ其
賣却シタル金ヲ以テ歳入トシテ豫算表中ニ列スルノ時ニ於テ
議會ガ之ヲ廢棄スルヲ得ザルヤ明カナリ然レモ法律ニ由テ特
ニ政府任意ノ賣却ヲ禁ジ又ハ法律上ノ結果ニ由リテ設ケラレ
タル國有財産例ヘバ造幣局、印刷局、東京砲兵工廠、大坂砲兵工廠
千住製絨所、官設鐵道、官報局、ノ如キモノ及ビ法律ニ由リテ特ニ
或ル用途ヲ指定シタル收入ノ財源ノ如キハ之ヲ賣却スルニ國
會ノ協賛ヲ要スルコト明カナリ
財務行政ニハ二個ノ官能アリ一ハ租稅ノ賦課徵集ヲ司リ一ハ
國債處分豫算調整及政費支出等ヲ司ル
歳入ハ豫算ノ目的外ニ支出スルコトヲ得ズ又互ニ相流用スルコト

豫備金

許サズ日本ニ於テハ二種ノ豫備金ナルモノヲ設ク

第一豫備金 ハ避クベカラザル豫備ノ不足ヲ補ヒ

第二豫備金 ハ豫算外ニ生ジタル必要ノ費途ニ充ツルモノ

トス 而シテ豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後

帝國議會ニ提出シテ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

財務ノ最高監督ハ會計検査院ノ手ニアリ歐洲各國ノ制ニ依レ

バ其職務ハ大概左ノ如シ

會計検査院ノ
職務

(一) 決及其算證據ニ關スル數字上ノ監督

(二) 國有財産ノ所得、使用、賣買、讓渡及租税ノ徵收并ニ賦課ニ關

シテ法律規則ニ反クコトナキヤノ監督

(三) 監督ノ結果ヲ國皇ニ上申シ且改良策アル片ハ意見ヲ附シ

テ上奏スルコト

(四) 決算ニハ證據及説明書ヲ附シテ之ヲ議院ニ提出スベキコト

明治二十二年五月九日法律第十五號ヲ以テ發布セラレタル
會計検査院法ノ要領左ノ如シ

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ獨立ノ
地位ヲ有ス

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關スル
計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

(一) 總決算

(二) 各廳及官立諸營造收支及官有物ニ關スル決算

(三) 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私
立諸營造ノ收支ニ關スル決算

(四) 法律勅令ニ由リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬サレタル
決算

第七 軍務行政

海陸軍ノ目的ハ元來外國ニ對シテ自國ヲ防衛スルニ在リト雖
凡必要ノ場合ニ當リテハ之ヲ内國防衛ニ用ユ

陸軍々務行政

陸軍々務行政ノ中心ハ陸軍省ナリ其職務ハ陸軍々政ヲ監理シ
軍人軍屬ヲ統轄シ及所轄諸部ヲ監督スルニ在リテ陸軍大臣之
ヲ行フ其出師國防戰爭ノ計畫及參謀將校ノ統轄教育ノ監督ノ
如キハ參謀本部ノ職權ニ屬シ參謀總長之ヲ行フモノトス

海軍々務行政

海軍々務行政ノ中心ハ海軍省ナリ其職務ハ海軍々政ノ監理軍
人軍屬ノ統轄所轄諸部ノ監督ニアリテ海軍大臣之ヲ行フ日本
ニ於テハ特ニ海軍大臣ニ委スルニ委轄ノ機務ニ參與シ出師戰
爭海防ノ計畫ヲ以テシ其下ニ海軍參謀部ヲ置キ軍事ノ計畫ヲ
掌ラシム英國獨乙ニ於テハ海軍大臣ハ行政事務ニ關スルノミ
ニテ軍事ニ參與スルコトナシ

行政監督ノ三種

第八 行政監督

夫レ行政ハ法律ノ範圍内ニ於テ活動セザルベカラズ而シテ其
監督ニ三種アリ一ハ議會ノ監督ニハ行政監督三ハ司法監督ナ
リ

一、議會監督 請願及質問等ノ手續ニ由リ豫算ノ討議ニ由リ國
皇ニ上奏スルコトニ由リ決算ノ監督ニ由リテ之ヲ行フ或ル國
ニ於テハ大臣ヲ彈劾スルアリ

二、行政監督

甲、官吏ノ行狀ニ關シテ懲罰ニ由ル監督
乙、事務ノ執行ニ關シテ上官ガ下官ニ向テ行フ監督
丙、收入支出ノアラユル事項ニ關シテ決算上ノ監督
三、司法監督 其目的行政廳ニ對シテ各個人ヲ保護スルニアリ
其方法ニニアリ

行政事項ニ關
スル救濟

行政事項ニ關シテ救濟ヲ請フニ二種アリ

- 甲、官吏其職務ヲ破リタルハ司法ヲ延ガ行フ監督
- 乙、國事犯及職務執行上ノ匪行ヲ裁判スルコトニ由テ行フ監督

一、一個人若クハ法人ノ利益毀損サレタルハ又ハ個人間ニ於ケル利害ノ抵觸アル時ハ行政廳ニ訴願シテ其裁決ヲ請フコト

二、私權私務ニ付キ爭議アル時及行政廳ノ裁決ニ對シテ法律上ノ理由ニ依リテ抵抗スル時ハ行政裁判所ニ訴訟ヲ起スコト

（我國ノ制度ヲ知ラント欲セバ明治廿三年六月廿八日勅令第四十八號行政裁判法ヲ參看ス可シ）

第九 大臣及官吏ノ法律上ノ責任

官吏其行爲ニ關シテ國家ニ對シ民法上及刑法上ノ責任ヲ有スルコトハ明カナリ然レモ一個人ニ對スル處ノ責任ニ付キテハ各

大臣ノ政治上
法律上ノ責任

國其轍ヲ一ニセズ佛ニ於テハ預ジメ參議院ノ允可ヲ經ルヲ要ス而シテ職務執行上ヨリ起リ私人的ノ行爲ヨリ起シザルモノハ之ガ救濟ヲ與ヘザルヲ常トス英ニ於テハ其職權外ニ出デタル時ニ限り又地方制度ニ於テハ惡意ヲ用ヒタルカ又ハ充分ノ理由アルニアラザレバ之レニ向テ私訴ヲ起スコトヲ得ズ刑事上ノ求刑ヲ爲サンガ爲メニハ不正及惡意ヲ要トス而シテ國王ハ此求刑ヲ取消スノ權ヲ有ス獨乙ニテハ其職權上ニ於テ行ヒタルコトモ全ク責任アリトナス普國ニテハ先ヅ最高行政裁判所ニ於テ官吏其職務ヲ怠リシヤ否ヤヲ檢ス

歐洲ニテハ大臣ハ違憲背法ノ行爲若クハ政府ノ方案ニ關シ國會ニ於テ質問及請願ニ答辨スルノ義務ヲ有ス代議院ハ大臣ノ行爲ヲ批評スルノ權利アリ之ヲ大臣ガ法律上ニ有スル責任トス大臣ト議會ト常ニ反對ノ地位ニ立ツ時ハ內閣ヲ退カザルベ

カラズ之ヲ大臣ガ政治上ニ有スル責任トス

第五章 各政体主權ノ分配ニ付キ歴史的研究

第一節 政体ノ區別

政体 區別

「アリスト
トル」氏ノ分
類

各政体主權ノ分配ニ付キ歴史的研究ヲ爲サシガ爲メニ勢政
体ノ區別ニ關シテ古來學者ノ所說ヲ簡單ニ敍セザルベカラズ
政体ヲ立君制、貴族制、及民主制ニ分ツテハ早ク「ヘロドタス」「ア
スキニース」ノ代ニ於テ已ニ唱ヘタリシガ「アリストートル」氏モ
亦此區別ニ和シ支配者ノ數ヲ標準トシテ政体ノ區別ヲナシテ
曰ク「政府ハ國家最高ノ主公ナリ其主公ハ一人又ハ數人又ハ市
民ノ團結ナラザルベカラズ」ト氏ハ又公衆ノ利害ニ注意スル處
ノ政府ヲ其自利自益ヲノミ計ル處ノ政府ヨリ區別セリ故ニ氏ノ

「プラト
」氏ノ分
類

區分法ニ從ヘバ政体ノ數況テ六種其中純正ナルモノ三否シザ
ルモノ三トス甲ハ即チ立君制、貴族制、及共和制ニシテ乙ハ即チ
暴君制、寡人抑壓制、亂雜無政府制ナリ
次ハ「プラト」氏ノ分類法ニシテ其說ニ曰ク「政体ハ人民ノ性格
ニ應ゼザルベカラズ故ニ政体ノ數ハ人民ノ特殊ナル性格ノ數
ト等シカラザルヲ得ズ善良ナル資性ヲ有スル人民ニハ貴族制
ナルヲ要シ大望ヲ抱キ訴訟ヲ好ムガ如キ人民ニハ「チモクラシ
」ナルヲ要ス（チモクラシ）トハ財產ノ多寡ニ應シテ政權ヲ分
配スルノ制ナリ此制度ヨリ流レ出ヅルモノヲ寡人抑壓制トス
此制ハ富豪者流ガ自家ノ利益ヲ計ルヲ旨トスルモノニシテ貪
婪ナル性格ヲ有スル人民ニ適シ民主制ハ限リナク厭クナキノ
思望ヲ有スル人民ニ宜シ亂雜無政府制ハ自由ノ濫用ヨリ起ル
モノニテ喧騒ヲ好ム人民ノ採用スルモノナリト

モンデスキュー
「氏ノ分類

「アリストートル」氏ノ三政体ニ加フルニ他ノ一種ヲ以テセント
スルモノアリ是レ「モンテスキュー」氏ノ唱ヘタル處ニシテ即チ
「アリストートル」氏ノ三政体ヲ混合セントスルモノナリ「モンテ
スキュー」氏ガ英國ノ憲法ヲ見テ國皇ハ君主制ノ長處ヲ有シ上
院ハ貴族制ノ長處ヲ有シ下院ハ共和制ノ長處ヲ有スルトナセ
シニ因ルト云フ

「アリストートル」
氏ノ分類ノ
非難

或ハ「アリストートル」氏ノ分類ハ論理ニ反スルモノナリトテ之
ヲ非難シ寡人制ト共和制トノ區別判然セズト云フアリ故ニ更
ニ分類ノ法ヲ異ニシ先ツ政体ヲ王制共和制ノ二ニ分チ共和制
ヲ再別シテ貴族制及民主制トナサントスルモノアリ然レモ茲
ニ政体論ヲ爲スヲ以テ本編ノ主旨トナサザルヲ以テ敢テ其就
レカ尤モ適當ナルヤヲ評論セザルベシ
夫レ時ノ古今ヲ問ハズ地ノ東西ヲ論セズ孰レノ政体ヲ以テ最

尤モ完全ナル
政体

モ完備ナルモノトナスヤハ古來哲學家ノ腦漿ヲ痛マシメタル問
題ニシテ彼等ノ遂ニ解スル能ハザリシ所ナリ夫レ國家ガ其官
能ヲ遂ゲント欲セバ政府ト稱スル一種ノ機關ナカルベカラズ
而シテ國家ノ機關ト官能トノ關係ヲ規定スルモノヲ憲法ト云
ヒ其關係ノ異ルニ從テ政体ノ差異ヲ生ズ凡ソ政体ノ其國ニ生
ズルヤ一朝一夕ノ故ニアラズ遠ク歴史的ニ發達シ來ル者ナリ
其自然ノ元素例バ農業國タリ工業國タリ商業國タルニ適スル
地勢風土社會上ノ元素例バ其國人種ノ道德上ノ性格或ハ自給
ニ富ミ或ハ自棄ニ流レ或ハ有爲活潑或ハ無爲逸居等ノ如キモ
ノ及教育上ノ元素例バ教育ノ程度宗教上ノ觀念等ノ影響ヲ受
ケ漸ク發達シ來リタルモノナリ故ニ國其國ヲ異ニスレバ勿論
例令同一ノ國ニ於テモ時世ノ變遷ニ由リテ其政体ニ變更ナキ
ヲ得ズ故ニ主權ヲ論セント欲スルモノ眼ヲ此点ニ注ガザレバ

古代ノ制度

往々此國ヲ以テ直ニ彼國ヲ推シ一國ノ法理ヲ以テ直ニ他國ノ法理ト同視セントスルガ如キノ弊ニ陥ル戒メザルベケンヤ

第二節 政体歴史の發達

一、古代ノ制度

水草ヲ逐テ轉居シ一定ノ住居ヲ有セザル人民ハ未ダ之ヲ目シテ社會トナスコトヲ得ズ盲昧野蠻ノ稍其ノ居ニ安ンジ家族ノ制度起ルニ及ンデ始メテ社會ノ發端成ル此時ニ當リテヤ社會ノ關係未ダ複雜ナラバ家族ノ首長相集リテ議會ヲ作り以テ日常ノ庶務ヲ執行ス而シテ此上ニ王ノ如キモノアレバ其權利非常ニ制限セラル一朝事アルニ當テハ軍隊ノ總督トナリ平時ニ於テハ司法ノ裁決ヲナス而シテ刑罰權ノ如キモ家族相互ニ復仇スルノ主義ニ依リシガ漸ク進ンデ金錢ヲ以テ刑ヲ贖フニ至レリ歐洲ニ於テ國民ノ大移轉起ルニ及ンデ其軍隊ノ長タルモノ

專權ヲ握掌スルコトナレリ此專權ニ由テ人民ノ離散ヲ防キ團結ノ確立ヲ助ケ後來文明進歩ノ地ヲナセリ斯クノ如キ有様ヲ古代ノ組織トス

此レヨリシテ三種ノ國家ヲ生出セリ一ニ曰ク宗教的國家二ニ曰ク市府的國家三ニ曰ク封建的國家是ナリ此三者中封建的國家ハ尤モ吾々ニ大ナル關係ヲ有スルモノナリ何トナレバ現今ノ君主制ハ其源ヲ茲ニ發シタレバナリ

二、宗教的國家

宗教的國家

此國家ハ神ヲ以テ直接若クハ間接ノ主權者トナシ法律ト宗教トヲ同一視スルヲ以テ其特性トス而シテ此國家ノ中ニモ亦三種ノ區別アリ一ハ通常世襲僧侶ノ特別階級アリテ專權ヲ握リ神ノ代表者トシテ政治ヲ行フモノニシテ猶太國ニ於テ行ハレタルモノナリ二ハ君主ヲ以テ神ノ代表者ト見做ス回々教諸國ニ

於テハ「カリ」フス「チ」以テ神ノ繼承者ト認ム現今土耳其ノ「サルタ」ンハ即チ回々教國ノ主長タリ三ハ君主自カシ神ト稱スルモノニシテ即チ代表ノ主義ニ依ラズ同一視ノ主義ニ依ル秘魯國ノ君主ノ如シ

市府的國家

三、市府的國家

此國家ハ前者ニ比スレバ其團體小ナルヲ例トス其目的タルヤ一個人ノ生活ハ公共ノ生活中ニ包含セラル、モノニシテ人世ノ幸福ハ國家ノ隆盛ヲ待テ始メテ期スルコトヲ得ベシト云フニアリ此國家ハ道德ト法律ヲ同一視シ私人ノ生活ハ公共ナル國家的生活ニ從屬スベキモノナリトノ主義ヲ取り道德上ノ完全ヲ求メント欲セバ公共ノ生活ニ賴ラサルベカラズトナス

封建的國家

四、封建的國家

「フランク」王國ニ於テ地方ノ團體ニ「ガウ」ト稱スルモノアリ其延

封建ノ勢ヲ成シタル原因

表ハ我國ノ幅員ヨリ稍小ナリ其長ヲ「グ」ラフ「ト」云フ「グ」ラフ「ト」ハ國王ノ目代ノ如シ軍事ヲ統べ裁判ノ事ヲ行フ「ク」ラフ「ト」ハ領地ヲ有シ租稅ヲ徵收シテ自ラ奉ズ臣民ハ自由ニシテ同等ノ權利ヲ有ス貴族ハ戰爭ノ爲メニ漸々衰ヘテ特權ヲ有スルモノナシ自由人民ノ下ニ位スルモノナリ「サー」フス「ト」云フ土地ヲ耕作シ力役ニ從事ス而シテ土地ト共ニ賣買セラル故ニ隸奴ノ類タルノミ自由人民同等ノ地位一變シ封建ノ勢ヲ醸成シタル原因中左ノ三者尤モ其重ナルモノナリ

- 甲 勞働ノ報酬殊ニ官吏ノ給料トシテ時期ヲ限リテ土地ノ收實權ヲ附與スルコト行ハレタリ後ニ至リテ之ヲ受ルモノハ必ズ從屬ノ誓約ヲナシ一定ノ官職ヲ有スルノ風習ヲ生シ從テ官職ハ封建的ノ性質ヲ帶ブルニ至レリ
- 乙 自由人民ノ中羸弱ナルモノハ戰爭ニ服役シ多額ノ失費

封建的國家ノ著シキ標目

ヲ招クヲ厭ヒ且ツ「ガウ」ノ大會一年ニ通常三度司法ノ事ヲ議スニ出席スルノ義務ノ煩ハシキニ堪ヘズ乃チ其財產ヲ大地主ニ讓ジ而シテ封建的ノ關係ニ由リテ之ヲ借り受クルニ至レリ是ニ於テ自由人民ハ其義務ヲ怠ルガ爲メニ巨額ノ罰金ヲ科セラル、トナ免レ大地主ハ益々其勢力ヲ増シタリ

丙 寺院及大地主ノ領土ヘハ國王ノ官吏「グラフ」ノ立入ルヲ禁ゼリ從テ軍事上ノ權及司法權ハ國王ノ手ヲ離レテ大地主ノ掌中ニ歸スルニ至レリ乃チ土地ノ所有權ニ混ズルニ其土地ノ支配權ヲ以テセリ

封建的國家ノ著シキ標目五アリ

甲 主從ノ關係ヲ結ブ

乙 階級ニ尊卑ノ區別ヲ設クル

丙 土地ノ真正ノ所有者ハ國王タル

丁 司法權ノ執行ハ自由人民ノ團結體之ヲ司ラズシテ各階級ノ同等人之ヲナス「英國上院ニ於テ其議員ハ同等人ノ判決ヲ受クルハ全ク此制度ノ遺物ナリ」

戊 中央王權ノ微弱ナル「十三世紀ノ半ヨリ已來封建制度大ニ其勢ヲ加ヘ貴族寺院及市府等ノ特權ヲ有スルモノヲ生ジ王權ハ次第ニ其力ヲ減ジ法律ノ制定租稅ノ賦課兵士ノ徵集等ヲ行フニ當テハ必ず此等特權ヲ有スルモノ、承諾ヲ要スルニ至レリ」

往昔自由人民ハ納稅セズトハ日耳曼諸國ニ於ケル原則ニシテ若シ金穀ヲ納ムル「アルモ」一時ノ寄附ニ過ギザリキ其租稅ヲ納ムルニ至リシハ全ク此ニ由テ已ニ獲得シタル權利ノ確認ヲ受ケ若クハ新ニ特權ヲ得ンガ爲メナリ而シテ其租稅支出ノ目

的ハ自己ノ指定スル所ニ由ラシメタリ而シテ此等ノ事ヲ議セ
 ンガ爲ニ族會ナルモノ起レリ族會ニハ自ラ出席スル貴族アリ
 代理者ヲ出ス平民アリ然レ此集會ハ今日ノ國會ノ如ク時期
 ナ定メテ會スルモノニアラズシテ必要ニ際シテ臨時集會スル
 ノミ現今ニ於テハ代議者ハ全國民ノ代表者ニシテ其發言ニ對
 シテ少シモ院外ニ其責ヲ負フコトナシ然レ此當時ニ在ツテハ全
 ク選舉者ノ意見ヲ總括シテ之レヲ會議場ニ陳述スルニ過ギザ
 リキ斯ノ如クニシテ王家ト族制トノ間ニ爭鬪止ム時ナク或ハ
 西班牙佛蘭西意大利ニ於ケルガ如ク王權盛大ニ赴キテ族制ノ
 獨立ヲ破壊シタルアリ或ハ英吉利ノ如ク族制ノ勝利ニ歸シ且
 ツ其ノ族制ノ利害ヲノミ計カラズシテ全國民ノ代表者トシテ
 活動スルニ至リタルアリ或ハ獨乙ノ如ク族制勝ヲ得テ自己階
 級ノ利害ニノミ汲々トシテ貴族ト紛爭ヲ生ズルニ至リタルア

近代ノ專制君主國家

リ

五、近代ノ專制君主國家

此政体ノ特質ハ國家權ノ掌握者ハ君主ニシテ其權限ニ制限ナ
 キコトナリ然レ此古代ノ專制政体ト異ルノ點ニアリ一ハ政府ハ
 王家ノ利益ヲ計ラズシテ意ヲ公共ノ安寧ニ注グコト二ハ君主ハ
 立法行政ノ本源ナレレ已定ノ法律ニ背反スルヲ許サ、ルコト是
 ナリ此國家ハ其源ヲ封建的國家ニ發シタルヤ明カナリ然レ此
 之ヲ以テ直ニ君主貴族間ノ紛爭トナスコトヲ得ズ是レ必竟階級
 的ノ特權ヲ維持セントスル主義ト公共的ノ利益ヲ保護セント
 スル主義トノ衝突ニ外ナラズ即チ君主ハ特權ヲ有スル貴族等
 ノ上ニ其地位ヲ占メテ以テ全國民ノ福利安寧ヲ企圖セントス
 ルニ出デタルナリ

此制ハ其餘弊ニ陥リ其專横ニ勝ヘザラシムルニ至リタリト雖

凡封建的ノ特權ヲ破壊シ全國民同等ノ主義ヲ確立シ現今ノ立憲代議制度ヲ輸入シタルノ洪益ハ覆フベカラズ
 此制度ノ下ニ於テハ一國ノ行政司法ノ權ハ國王及樞密院ニ於テ會議制ニ由テ之ヲ行ヒ財務行政モ大ニ整理シ稅租モ全國民ノ義務トナレリ從來封建貴族ガ納稅ノ義務ヲ免レタル所以ハ其兵役義務ヲ負擔シタルガ爲メナリキ然ルニ雇兵制度行ハレ遂ニ常備軍起リテ此必要ヲ失フニ至リ始メテ全國民均一ニ其義務ヲ負フトナレリ

立憲政体

六、立憲政体

立憲政体ニ三種アリ

- 甲 君主立憲政体
- 乙 立憲君主政体
- 丙 民主立憲政体

三政体法律上ノ區別

甲乙ニ普通ナル特質ハ君主ト代議機關ト共同セザレバ國家權ノ或種類ノ公共ノ行爲ヲナスコト能ハザルナリ
 丙ハ一名ヲ共和的代議政体トモ云フ其源ヲ米國ニ發ス而シテ佛ニ入レリ此政体ノ特質ハ人民ノ全体ガ憲法上ノ機關及形式ニ由リテ國家權ノ掌握者タルニアリテ主權者ノ意思ハ公民多數ノ意思ニ由リテ決スルモノナリ
 今此三政体ノ法律上ノ區別ヲ略論シテ本論ヲ終シントス君主立憲政体トハ君主ノ欽定ニ係ル憲法ヲ有スル政体ヲ云ヒ立憲君主政体トハ君民ノ協議ニ依テ成レル憲法ヲ有スルノ政体ヲ云ヒ民主立憲政体トハ人民ノ合同制定ニ係ル憲法ヲ有スル政体ヲ云フ何ヲ以テ欽定憲法ヲ有スルモノヲ君主立憲政体ト云フヤ蓋シ欽定憲法ハ君主即チ爲約者單純ノ意思ニ原ヅキタル約束ニシテ受約者即チ臣民ノ暗黙ナル服從ニ由リテ純然タル

契約ヲナスト雖ドモ然ドモ君主ガ憲法ヲ立ツルヲ以テ統治權ノ主体ハ君主ニアルナリ國約憲法ハ君民ノ共議ニ成レル契約ニシテ君主及臣民ノ權利義務ハ相互ノ契約ヨリ出ヅルモノナリ即チ君主ノ權義ハ憲法ノ規定ニ由テ始メテ生スルヲ以テ立憲君主制ト云フ此制ニ於テハ主權ハ君民ノ共有ニ係ルモノナリ民定憲法ハ人民ノ合同制定ニ成ルヲ以テ憲法ノ制定政体ノ基礎全ク人民ニアリ人民ハ即チ主權ノ本体憲法ノ本源ナルヲ以テ之ヲ民主立憲政体トハ云フナリ

我日本帝國ハ純然タル欽定憲法ヲ有スルヲ以テ君主立憲政体ナリ英國普國ノ如キハ其憲法ノ成立ニ於テ國約タルノ跡明カナリ故ニ此等ノ國ハ立憲君主政体ニ屬ス米國佛國ノ如キハ民約憲法ヲ有スルガ故ニ純然タル民主立憲政体ナリ此三政体ハ其成立ニ於テ互ニ相異リト雖モ其憲法ノ結果ニ至

リテハ少シモ徑庭アルナシ何トナレバ此三者共ニ契約ナルヲ以テ君主臣民共ニ之ヲ遵守セザルベカラザルヤ必セリ而ルニ或論者ハ説ヲ爲シテ欽定憲法ニハ制裁ナシ欽定憲法ハ君主ガ發シタル一種ノ命令ニ過ギズナド論ジ之ヲ以テ立憲君主制ト君主立憲制ノ區別トナサントスルニ至リテハ抑モ極端ト云ハザルベカラズ余輩ガ此ノ政体ノ間ニ區別ヲ設クルハ其政体ノ成立上ヨリナスモノニシテ其已ニ成立チタル已上ハ純然タル約束ニシテ共ニ充分ノ制裁アルモノト信ズルナリ

主
權
論
終

